

貝塚市立
浜手地区公民館

目 次

■年間総括	浜 1
■講座・事業		
◇ 青少年対象事業	浜 6
	夏の子ども講座 コドモ防災塾 新春あそびたい会 鉄道模型 H0 ゲージ走行展示会 子ども居場所事業（はまて子どもパーク・レッツ TRY・+KOMINKAN）	
◇ 子育て支援事業	浜 10
	子育てサロン☆ほっとスペース げんきに子育て パパサロン	
◇ 成人対象事業	浜 14
	シルバーライフ シニア世代の筋力アップ講座（高齢介護課共催講座） ボール de ゆる体操 かしこく夜活（前期・後期） 茶歌舞伎 エコで足の健康にもよい！布ぞうりを作ろう 上映会「めぐみへの誓い」 認知症予防にもなるスマホでイキイキライフ（高齢介護課共催講座） カラダすっきり☆ストレッチ 楽酒もう～ワイン編～ ダイエットボクササイズ	
◇ 共生課題事業	浜 26
	ふれあい料理講座	
◇ 文化振興事業	浜 28
	浜手アフタヌーンコンサート にんぎょうげき シャンソンでこころのエステ Autumn Jazz Concert	
◇ 人材養成事業	浜 31
	保育ボランティア ふれあい料理ボランティア 浜手アフタヌーンコンサート企画委員 図書整理ボランティア	
◇ 地域連携事業	浜 34
	第34回 ふれあいまつり ロビー活用（展示・図書・コーヒーコーナー） 第五中学校区地域教育協議会（すこやかネット） パークタウン（連絡協議会・防災専門委員会・盆踊り実行委員会） プレイルーム開放 【参考】「ほかでもがんばっているよ」一覧表	
◇ 団体支援事業	浜 38
	浜手地区公民館利用者連絡会	

* 「新型コロナウイルス感染症」は、「コロナ」または「感染症」と表記する場合があります。

令和4年度 浜手地区公民館 事業総括

はじめに

今年度は一年を通じて感染予防に細心の注意を払い、内容について慎重に協議を重ね、講座・事業を展開した。また、三密が予測される場所ではパーティションや空気清浄機を設置し、安心安全の確保に努め、当初から予定していた講座・事業はすべて行うことができ、改めて人とのつながりが重要なことを認識できた年となった。

1 公民館主催事業

- ・市民誰もが親しみやすい文化・学習活動の場を提供するとともに、地域づくりに向けた意識の醸成を図り、市民の生活課題を反映させた講座・事業を進める。

<状況・成果>

- ・講座事業において、受講者の声を講座内容に反映させ、開催においては感染予防に注意を払い、地域と公民館の繋がり・地域住民同士の繋がりを意識し、協議を重ねながら開催した。
- ・働く世代が参加しやすい夜間・土日での講座開催を行い、新規利用者の開拓につなげ、また SDGs に関連した取り組みの推進を図った。
- ・広報かいつか・ホームページ・フェイスブック等を活用し広報に努めるとともに事業終了後はこれらに加え壁新聞でも学習成果の報告に努めた。また地域の広報紙にも情報提供を行った。

<課題>

- ・引続き、現代的課題の学習機会の提供と市民ニーズの発掘に努め、様々なツールで学習成果の共有をしていく。
- ・若年層と新規受講者の獲得に向けた事業を検討する。
- ・今後のコロナ感染症対策においても、出来る内容を慎重に協議しながら取り組む。

① 青少年対象事業

- ・子どもが公民館を利用しやすいよう環境を整えるとともに、夏休みや土日を利用して様々な体験ができる講座などを開催する。
- ・子どもが、企画・運営にも関わる事業に取り組み、主体性を育む。
- ・異世代・異年齢の人との交流ができる機会を設ける。
- ・青少年の自主活動でも利用できることを広く知らせる。

<状況・成果>

- ・「夏の子ども講座」は、昨年より講座数や受講者を増やすことができ、15 企画すべての講座で様々な体験ができた。またメールでの申込みが約 9 割で、若い世代のツールの一つだと再確認した。
- ・「鉄道模型 H0 ゲージ走行展示会」はロビーを活用し、電車好きな子どもや親子、大人が集い世代間交流の場となった。
- ・「コドモ防災塾」は、防災・気象をテーマにし、子どもたちの防災に対する意識向上の場となった。
- ・ロビーで集う子どもたちのため、玩具・卓球ラケットは、一回使うごとに消毒をし、コロナ感染防止に努めた。また、ソーシャルディスタンスを保つよう貼り紙や声をかけながら、子どもが安心して遊べるようにした。
- ・浜手子どもパークは、日毎によって人数の開きはあるが、親子で訪れる幼児・児童もあり、行動制限が緩和されて以降増加している。またロビーに四季折々の飾り付けをし、来館者を楽しませた。
- ・レッツ TRY は、中高生の自主的な活動を支える事業だが、今年度の登録はなかった。
- ・「+KOMINKAN」は、11 月から参加年齢の幅を小学生～大学生に広げ、大人のボランティアを含めた世代間交流、及び若い世代に公民館を知ってもらう機会を設け、交流の場となった。
- ・「新春あそびたい会」は、昔あそびや工作を通してボランティアとの世代間交流の場となった。

<課題>

- ・引き続き子どもたちが参加しやすく、安全な講座を開催するため内容と持ち方の検討を行う。

② 子育て支援事業

- ・子育て世代対象の講座を企画し、学習・交流を通じて不安を解消し、孤立しないよう仲間づくりを進める。
- ・乳幼児親子の交流の場を設け、父親も含めた親同士の繋がりが広げられるよう工夫し取り組む。
- ・関係各課と連携して、子育てに対する幅広い支援を推進する。

<状況・成果>

- ・「子育てサロン☆ほっとスペース」は、造形あそびと子連れヨガを取り入れ、参加者が増加傾向にあり、母親同士の交流・情報交換の場となった。
- ・「パパサロン」は、新たな参加者もあり、未就学児と父親の交流の場となった。
- ・「げんきに子育て」は、三館で時期をずらして開催し、母親同士の交流や学びの提供ができた。

<課題>

- ・コロナ下における子育ての不安を解き、親子が安心して受講し子育てするなかで孤立しないような居場所づくりを行う。

③ 成人対象事業

- ・若者や働く世代が参加しやすい日時を考慮した単発講座などで受講者の拡大を図り、また講座修了後の学習及び集団作りに繋がるよう働きかける。
- ・より広範な市民が関心を持ち、新規受講（参加）者の開拓につながるような事業の企画・開催に努める。
- ・受講者が講座運営に主体的に関われるよう配慮し、市民参画型の講座・事業を進める。
- ・地域課題の把握に努め、学んだ知識を日々の生活や地域の中で生かし、支え合う人間関係づくりができるような事業展開を図る。
- ・関係各課との連携で、事業内容を充実したものにしていく。

<状況・成果>

- ・「シルバーライフ」は、会話しやすい雰囲気づくりを意識し、参加者同士の繋がりのきっかけ作りとなった。
- ・「かしこく夜活」・「ダイエットボクササイズ」は、若者や働く世代が参加しやすい時間帯を考慮し夜間に実施、また若者が興味を抱く内容で開催し公民館の利用に繋がった。
- ・「シニア世代の筋力アップ講座」及び「スマホでイキイキライフ」は、高齢介護課と共催で開催。高齢者の健康増進につなげ、またスマホに対する高齢者の意識の高さが伺えた。
- ・「からだスッキリ☆ストレッチ」は、3期に分けて開催し、各期初めての人を優先、新規受講者開拓に努めた。運動が苦手な人でも無理なく運動ができる機会となり、体を動かすきっかけとなった。
- ・「布ぞうりを作ろう」は要望する市民が多く、またSDGsの取組として開催した。
- ・「茶歌舞伎」及び「楽酒もう」は、若年層を対象に身近な食文化の促進となった。
- ・「ボール de ゆる体操」は、グループ化を目指し開催したが、自主活動への不安が解消されず、結果断念することとなった。しかしながら参加者同士の交流と健康増進に繋がった。
- ・「めぐみへの誓い」は、家族の絆や繋がりを考えさせられる映画で、鑑賞した人の気づきのきっかけ作りとなった。

<課題>

- ・開催日時やテーマを工夫し、新規受講者の開拓に努める。
- ・高齢者が地域の中で生き生きと暮らせるよう講座・事業に取り組む。

④ 共生課題事業

- ・多様性社会への理解を広めるとともに、共生社会の課題を考える機会とする。
- ・人権を自身に引き寄せて身近にとらえられる講座の展開を検討する。

<状況・成果>

- ・ふれあい料理は、コロナ下で参加者を昨年同様、定員を1/2相当で実施。料理を通じて障がい者の自立・社会参加の場を提供、また受講者とボランティアの交流の場となった。

<課題>

- ・多様性社会への理解については、テーマや切り口を変えながら、継続的に取り組むことが必要である。

- ・人権を身近に捉えられるようさまざまな方法で人権学習の構築をする。

⑤ 文化振興事業

- ・発表や展示の場を提供し、利用者(市民)の文化活動の活性化を図るとともに、企画に携わる市民ボランティアの拡大など、市民参画の文化事業を推進する。
- ・今年度も気軽に立ち寄れるロビーを活用した催しを開催し、身近に芸術にふれる事が出来る機会を提供する。
- ・ホール等の活用で身近に生の文化芸術に触れる機会を設ける。

<状況・成果>

- ・市民との協働で行っている「アフタヌーンコンサート」、また「シャンソンでこころのエステ」「Autumn Jazz Concert」は、音楽を通して文化芸術に触れる機会を設けることができた。参加人数の制限や事前申し込み制にするなど、コロナ感染拡大防止対策に努めた。
- ・ロビーを活用し、公民館クラブや市民の作品も展示した。
- ・「にんぎょうげき」は、公民館クラブの協力で行い、親子が人形劇を身近に触れる機会を設けた。

<課題>

- ・市民の新しいニーズ把握に努めるとともに、参加型の文化事業の継続も検討していく。

2 人材養成事業

- ・クラブやグループ活動の中から、主体的に活動を担う人材が育つよう助言や支援を行う。
- ・ボランティアの研修を実施し、ボランティア活動の充実・人員増を図るため周知する。
- ・公民館利用者の意識を高めるため、公民館に関する課題が認識できるような取り組みを企画・実施するとともにクラブ講師に対しても協力を求めていく。
- ・地域連携事業を通して、新たな人材の発掘・登用を図る。

<状況・成果>

- ・アフタヌーンコンサート企画委員会は、前回のコンサートの振り返りや今後の出演者候補の決定、またポスター掲示や近隣へのチラシポスティング等の広報活動を行った。
- ・保育ボランティアは、保育付き講座「げんきに子育て」に加え、「子育てサロン☆ほっとスペース」にも関わってもらい、ボランティア間交流が促進された。
- ・料理ボランティアは、ボランティア・施設指導員・職員と打ち合わせを行い、引き続きコロナ感染症防止対策をはじめ、運営についての話し合いを行った。
- ・各種ボランティアの協力で、各講座・事業の活動が充実し、また世代間交流に繋がった。

<課題>

- ・継続的にボランティアの人員拡大を図る。
- ・ボランティアの声も聞きながら、安心して講座運営に関わることができるよう支援する。

3 地域連携事業

- ・地域の団体や町会へ積極的に出向き、地域の課題やニーズの把握に努め事業に反映する。
- ・町会館・学校など身近な施設を利用し、普段公民館に来られない人も参加しやすくするよう考慮し、それを通じて地域の繋がりを広げるようにする。
- ・「ふれあいまつり」は、地域団体を含む参加団体で企画段階から話し合いながら広く地域住民への啓発・交流の場として取り組んでいく。

<状況・成果>

- ・既存クラブの存続や、市民の声を聴き新規クラブの立上げを図ったが、実現には至らなかった。
- ・小学校のボランティア支援活動や、不登校の子どもに公民館活動の場所を提供し、公民館利用者とともに、地域と学校を結ぶ活動を支援した。
- ・パークタウン連絡協議会・防災専門委員会の会議に出席し、地域の情報を把握。盆踊りはコロナ感染拡大防止対策のため開催中止となった。また近隣地域の各種会議に職員が関わり、地域と繋がりを持った。
- ・「ふれあいまつり」は、今年度もコロナ下で規模を縮小し、公民館クラブ・利用者団体・地域団体と企画段階から4部会に分かれ会議を行い、結果つながりや交流の場となった。また模擬店を伴うまつりは3年ぶりだったが、クラブ間同士の協力のもと、大盛況に終わった。
- ・「ロビー展示」は、クラブや子どもパーク、三館利用者連絡会の展示交流が行われ、地域の憩いの

場となった。

<課題>

- ・コロナ下でも人とのつながりが希薄にならないよう地域と連携を図りながら取組んでいく。
- ・地域の状況やニーズに応じた事業を展開していく。

4 団体支援事業

- ・クラブやグループの状況把握に努め、会員拡大・活性化や新規クラブ化のために適切な支援を行う。
- ・各クラブの体験講座や地域活動等の取り組みを奨励し、活発に行えるよう支援するとともに、その活動状況・成果をパネル展示等で広く利用者・市民に紹介する。
- ・公民館活動の意義や重要性について啓発し、主体的な活動となるよう繰り返し働きかける。

<状況・成果>

- ・利用者連絡会定例会で、クラブ体験講座開催について呼びかけ、広報で受講者を募った。
- ・利用者団体代表者会議のかわりに、利用者連絡会定例会の中で、公民館についての利用者の認識を高め、自主活動の大切さ、また公民館活動の意義や公民館の使い方等について伝えた。
- ・利用者連絡会は、コロナ下が長引き、近年レクリエーション等を中止しており、クラブ間同士の交流機会が減っている。

<課題>

- ・今後も公民館活動に対する認識が深まるよう働きかける。
- ・引き続きクラブ活動が維持できるよう支援していく。

《主催講座・事業・共催事業》

事業区分	講座・事業名	受講者数	期間	回数	延べ参加者数
青少年対象事業	レッツ TRY		通年		
	夏の子ども講座		7/21～8/6	15回	172人
	鉄道模型 HO ゲージ走行展示会		8/6・8/7	2回	120人
	コドモ防災塾	11人	8/20	1回	11人
	+KOMINKAN (小学生～大学生の居場所)		4/24～3/26	11回	33人
	新春あそびたい会		1/10	1回	56人
子育て支援事業	子育てサロン☆ほっとスペース		4/5～3/28	43回	427人
	パパサロン	8組 25人	5/22～12/18	7回	54人
	げんきに子育て(保育つき)	6人	5/27～7/1	6回	27人

成人対象事業	シルバーライフ	28人	5/12～12/1	21回	439人
	シニア世代の筋力アップ講座(高齢介護課共催講座)	44人	5/17～7/12	5回	176人
	ボール de ゆる体操	①15人	①5/24～7/26	5回	53人
		②15人	②9/13～12/13	7回	64人
		③16人	③1/24～3/14	4回	54人
	かしこく夜活	①26人	6/30～7/28	5回	105人
		②14人	1/12～2/16	6回	69人
	エコで足の健康にもよい! 布ぞうりを作ろう	15人	7/4・7/11	2回	26人
	上映会「めぐみへの誓い」	37人	8/5	1回	37人
	認知症予防にもなるスマホでイキイキライフ (高齢介護課共催講座)	10人	8/26～9/9	3回	28人
	カラダすっきり☆ストレッチA (ボールを使ったストレッチヨガ)	①19人	①9/6～10/18	各4回	63人
		②23人	②11/1～12/20		78人
		③24人	③1/17～2/21		75人
カラダすっきり☆ストレッチB (ミニハンドベルを使ったリズム体操)	①9人	①9/2～10/21	各4回	28人	
	②24人	②11/4～12/16		78人	
	③13人	③1/20～3/3		36人	
ダイエットボクササイズ	25人	11/11～12/23	4回	80人	
茶歌舞伎	11人	11/27	1回	11人	
楽酒もう	16人	3/5	1回	16人	
題共 事生 業課	ふれあい料理講座(障がい者のための料理講座)		5/9～3/13	10回	107人
文化 振興 事業	浜手アフタヌーンコンサート		4/14～2/9	6回	500人
	シャンソンでこころのエステ		7/30	1回	67人
	Autumn Jazz Concert		9/4	1回	71人
	にんぎょうげき		2/18	1回	51人
人材 養成 事業	保育ボランティア	12人		6回	48人
	ふれあい料理ボランティア	12人		11回	58人
	浜手アフタヌーンコンサート企画委員	6人		6回	34人
	図書整理ボランティア	2人			
地域 連携 事業	プレイルーム開放		5/29～1/31	24回	69人
	第34回ふれあいまつり		10/22～23	1回	700人
	ロビー活用(展示・図書・コーヒーコーナー)				
	第五中学校区地域教育協議会(すこやかネット)			3回	
	パークタウン(連絡協議会・防災専門委員会・盆踊り実行委員会)			13回	
援団 事業 支	浜手地区公民館利用者連絡会[27クラブ]	324人			
	利用者団体代表者会議				

【表の見方】「受講者数」は、申込を受理した人数。記載のないものは当日参加、または1回限りの事業(参加者数は「延べ参加者数」欄に記載)、ボランティアにおいては「登録人数」

夏の子ども講座

<ねらい>

学年や学校を越えた異年齢交流。

公民館クラブ・グループや地域の大人との関わりの中で、様々な体験をする。

講座協力を通してクラブや団体の活性化を図る。

<状況・成果>

7/21～8/6 受講者：延べ172人 15講座 協力：15団体

講座の企画を利用者連絡会の定例会で呼び掛けたところ8クラブが参加、またクラブ以外の団体にも積極的に声をかけたので7団体が参加し、昨年度より講座数や受講者を増やすことができた。

申込みは今年度から往復はがきを止め、窓口と二次元コード（メール）での受付とした。約9割がメールを使い、普段は利用の少ない二色校区以外の家庭からの参加や中学生が自身の携帯で申込みケースもあり、若い世代にとってメールは気軽に申込みことができるツールの一つだと再確認した。

全体的に調理を伴う講座は人気が高く、特に兄弟一緒に参加できる「3時のおやつ（対象：1～6年生）」には定員の6倍の申込みがあった。調理を伴い且つ低学年が参加できるとあって予想以上の人気である。これは、小学校低学年の子どもが参加できる講座が少ないという昨年度の課題から、企画段階でボランティアに低学年向けの内容を打診した効果だが、低学年を受け入れる講座がまだまだ足りていないことがわかる。引き続き協力クラブや団体に声掛けし、低学年向きの内容を増やしていく必要がある。



また浜手地区公民館では一人2講座まで申し込めるが、抽選となった講座は6講座あり、申し込んだ講座がどちらも人気で2つとも抽選に外れ受講できなかったという事例も多くあった。“一人2講座まで”という制限をどうするのか、“調理を伴うもの”に限定するなど検討の余地がある。

コロナ下での開催も2回目となると協力クラブ・団体側も職員側も慣れた部分があり、定員を減らしての受け入れやコロナ対応の確認を含めた打ち合わせは順調に進んだ。しかし、コロナの感染者数は7月末から増え始めた。不安になった1団体は開催直前に子どもが行う調理を最小限にし、終了時間を早めるなどの変更をした。急な変更だったが保護者はみな理解を示し、その他の講座でも「コロナの中でも開催してくれて嬉しい」「子どもがとても喜んでいた」という声があり、感染対策をしつつ臨機応変に対応しながらすべての講座を開催できたことに安堵する。

【子どもの感想】

いろんな人がいろんなことを教えてくれた。/自分が思うことをすべて自由につくれたから楽しかった。/日常ではできないことをしてドキドキしたけど、やっていくとドキドキよりもっとしたいという気持ちの方が増えた。/初対面の人と、作ったり食べたりしたら、友達になれたりして楽しかった。

【協力クラブ・団体の感想】

帰る時にお母さんと一緒にいた子どもさんがボランティアにお礼を言ってくれました。/久しぶりの子ども講座で、私たちも楽しかったです。また来年もやりたいです。/クラブ員もとても楽しく過ごせました。準備なども楽しかったです。/せっかくの夏休みコロナの時代、講座の時間が楽しくストレス解消になれば幸いです。毎年続けてもらえれば良いと思います。

<課題>

たくさんの子ども達に参加できるよう、申込みの制限を再検討する。

引き続き、低学年が参加できる内容を協力団体へ呼びかける。

コドモ防災塾

<ねらい>

おやこ・子どもたちに、防災・気象の知識を伝え、気象へ興味を持たせることによって防災意識の高揚をはかるとともに災害への備えと発災時における身を守る行動を身につけてもらう。

<状況・成果>

紙パックで風速計を作ろう 8/20 土曜日 13時～15時 受講者：11人

講師：柴谷一弘、(補助) 下本英明 ((一社) 日本気象予報士会関西支部 気象予報士)



紙パックを使ってダビンチ式風速計を作る講座を実施。前半では紙パックにマジックで切り取り線を書いて切り取り。切り取った紙(紙パック)に用意してくれた型紙を貼り付けて、メモリや羽根を作り、ストローと綿棒で軸を作って貼り付けて完成。紙パックの切り取りも思ったより手間取り、またストローと綿棒で作った軸を、本体に付けていくのにも、なかなかうまくいかず、時間オーバーになってしまったが、全員、風速計を完成させることができた。

後半では作った風速計を使っての観測の仕方や、注意することなどを教わり、そのあとは“風”についてをクイズ形式で楽しく学んだ。最後の質疑応答には、気圧の話や人工衛星の話までも飛び出すなど、ちょっと難しいところもあったものの最後まで積極的に楽しんでいった。また、今年は初めて中学生が参加するなど参加者が大幅に増え、開催にあたり日程や内容を配慮した成果がみられた。



参加者のアンケートより

・工作で「風速計」というものがよくわかり興味をもてて良かったです。知らないことも気象予報士さんに教えていただき勉強になりました。

<課題>

日程や内容については引き続き十分な検討が必要。

工作系の場合は参加対象年齢が様々で、所要時間、出来ばえに個人差が生じるため、これらへの配慮が必要。

新春あそびたい会

<ねらい>

子どもたちが地域のボランティアから昔遊びやおもちゃ作りを教わり交流を深める。

昔遊びの伝承。異年齢・異世代との交流。

<状況・成果>

新春あそびたい会 1/10 火曜日 13時半～15時 参加者：56人 遊びボランティア：22人

遊びボランティア打ち合わせ 12/5 月曜日 14時 遊びボランティア：8人

子ども達が大人の遊びボランティア(以下、ボランティア)と一緒に昔遊びや工作をする「新春あそびたい会」を、3学期の始業式の日午後に開催した。ボランティアの募集は、今までに参加したことのある人への声かけを中心に行ったが、今回新たに、将棋や卓球コロコロのメンバーによる自作のスマートボールの参加があり、減少傾向にあったボランティアの人数を確保することがで

—青少年対象事業—

きた。

子どもたちへの事業の周知は、「広報かいづか」掲載と二色・西各小学校へのチラシ配布やポスター掲示で行った。

遊びボランティア打ち合わせでは、それぞれの担当の遊びや工作と使う部屋を決め、必要備品や材料、当日の流れを確認した。前回までは使う部屋に合わせて5カ所で実施していた

スタンプラリーは、今回は各遊びごとに8カ所で実施し、市役所各課から紙袋やマスク、ティッシュ、アルファ化米といった啓発物品の提供を受け参加した子ども達の景品とした。

当日は開始時刻にホールでボランティアが遊びの説明などをした後、貝塚警察の110番の使い方や防犯の話があり、子ども達に防犯の注意喚起をする機会にもなった。

ホールでコマ回し・けん玉・ボウリング・テーブルホッケー・スマートボール、和室で百人一首と貝塚市のパッカー車クラフト、講座室で将棋あそびとあそび隊による牛乳パックの笛などの工作が行われた。

初めは子どもが少ないところもあったが途中からの参加も徐々に増え、先に遊んでいた子が自発的に順番を代わり、譲りながら遊ぶ様子が見られた。昔遊びのコマ回し、けん玉などは時間内になかなかできるようにならずに苦戦する子が多かったが、ボランティアに教えてもらいながら一生懸命取り組んでいた。

子ども達が思い切り楽しんで遊ぶとともに、ボランティアからも「子ども達が楽しんでくれたことが嬉しくとても良かった」との声が聞かれた。地域の大人や子どもが交流する良い機会となった。

<課題>

異世代が交流できる機会として、ボランティアの協力のもと事業を実施していく。

新規ボランティアの確保。

鉄道模型 HOゲージ走行展示会

<ねらい>

子どもから大人まで人気のある鉄道模型を介して、世代間交流、及び日本の歴史ある鉄道文化や面白さを子どもたちに伝え、関心を持ってもらう。

<状況・成果>

8/6 土曜日 12時～16時 参加者約50人 ・ 8/7 日曜日 10時～15時 参加者約70人

展示者：鉄道クラブ代表 眞鍋 友昭

人気が根強い鉄道模型（HOゲージ）の走行展示会を開催。未就学の子どもから大人まで、幅広い参加があった。ボランティアだけでなく、参加した大人が走行の操作方法や鉄道文化、列車の歴史の話をし、子どもたちがそれを聴き入り楽しむといった世代間交流、及び鉄道文化の促進に繋がった。また、ロビーで行ったこともあり、通りすがりの来館者が鉄道模型に気づき、子どもたちとコミュニケーションを取るといった場面もあった。予想以上の来館者があり、走行会で時間待ちが発生、10人ほど並ぶという事態になった。

<課題>

整理券を発行するなど、公平かつ安心して順番待ちができるように再考する。

※HOゲージ：鉄道模型におけるサイズの一つで、鉄道模型の中では中間的なサイズ。軌間16.5mmの軌道を軸に、輪軸、車両限界の規定からなる。



子ども居場所事業（はまて子どもパーク・レッツ TRY・+KOMINKAN）

<ねらい>

子どもの安心安全な居場所、異世代・異年齢の人との交流の場の提供。

中高生の自主的な活動を支援する。

<状況・成果>

【はまて子どもパーク】

「はまて子どもパーク」（社会教育課主催の「放課後子ども教室」）は、月・木の曜日担当で行っている。参加人数については日によってかなりの開きがあるものの親子で訪れる幼児・児童もあり、行動制限が緩和されて以降は増えてきている。高学年の子どもはあそびの見守りが中心だが、低学年の子どもには折り紙やアクセサリ作りなどを教えたりした。その都度ボランティアは子どもの要望に応えながら活動している。毎年七夕の笹飾りやクリスマスツリーの飾りつけも華やかで、来館者を楽しませた。



昨年度途中からフリー参加している将棋ボランティアについても今年度は毎週木曜日に来てもらっており、頻繁に将棋を目当てに来館する子どももいるなど定着してきている。来年度からは放課後子ども教室のメンバーとして活動していく予定。

【レッツ TRY】

中高生の自主的な活動を支える事業「レッツ TRY」の登録は今年度もない。一度午後6時過ぎに中学生が来て、みんなでダンスの練習をするので部屋を借りることはできるかと聞かれたが、夜間は保護者の見守り付きで貸している。夕刻からしか活動できない中学生と夕刻は忙しい保護者にとっては現実的ではないルールかもしれないが、子どもの安全を優先するために理解を促していきたい。また引き続き学生はもちろん親世代も含めた周知をしていく必要がある。

【+KOMINKAN】

公民館に来る高校生や大学生はもともと少ないが、コロナ下3年目となり、大学や専門学校も対面での授業に切り替わったことでさらに減った。今年度は「+KOMINKAN」の見直しをし、11月からは小学生も参加できる子どもの居場所事業として展開することにした。地域ボランティアにも協力を要請し、子どもの見守りやあそびを充実させていく。今年度は子どもへの周知期間とし、またはまて子どもパークの延長として捉え、二色地域周辺に住んでいる子がたまに来て「久しぶり、元気やった？」と地域ボランティアと会話する機会を増やすことを目指していく。



<課題>

引き続き感染症対策を講じながら、誰もが安心・安全に過ごせる場を作る。

レッツ TRY、+KOMINKANについてはさらなる周知が必要。

子育てサロン☆ほっとスペース

<ねらい>

0歳から未就園児親子の居場所・交流の場。

子どもの“あそび”について考える場。(子育てサロン de 造形あそび)

母親のストレス解消の場。(子育てサロン de 子連れヨガ)

<状況・成果>

4/5～3/28 毎週火曜日 (49回) 10時～12時 参加者延べ197組 (427人)

【第2・4火曜日 (24回)】「子育てサロン de 造形あそび」 10時半～11時半

【第5火曜日 (4回)】「子育てサロン de 子連れヨガ」 10時半～11時半 講師：MIKI (まちのすぐれもの登録者)

乳幼児親子がいつでも気軽に集える場として、昨年度から毎週サロンを行っている。参加人数は週によってばらつきがあるが、3～4組集まると自然に情報交換をする様子が伺える。時には睡眠や離乳食の悩みなどの話題になるので、職員はそれぞれの家庭の事例をあげてもらおうよう話を振り、いろいろな話をすることで参加者どうしのつながり作りを目指している。

9月からは第4火曜日に保育ボランティア3人が関わることになった。主に参加者と一緒に造形あそびをしてもらうが、遊びながら子育ての話聞く役割にもなっている。専門的な事なら支援センターを紹介するが、公民館ではちょっとしたアドバイスで解決することが多い。

前半に来ていたメンバーは子どもが大きくなるにつれほとんどが来なくなったが、浜手のリトミッククラブや中央の子育てサークルにつながった。サロンにはまた新たな顔ぶれが参加するようになり、あそびの内容に興味を示したり、子連れヨガへの新規の参加にもつながった。

11月後半に行なった情報交換の中で、小さいうちから英語にふれさせたいという話がでて、同じことを考えている人が多いことがわかった。パークタウンの土地柄、関西国際空港に勤務する人も多く英語は必須だと感じているようだ。今後サロンの中でそのような機会を作るか、単独の講座として開催するか考えていく。

<課題>

参加者は常に入れ替わるので、広報をしっかりと行う。

いかに参加者(市民)の意見を反映できるか、サロン全体の内容を含め検討する。

造形あそびの内容	
4/12・・・ボールコロコロ	10/11・・・ミニだんじり
4/26・・・ビニール風船	10/25・・・洗濯バサミであそぼう
5/10・・・シール貼り	11/8・・・的あて
5/24・・・びよんびよんかえる	11/22・・・新聞ビリビリ
6/14・・・小麦粉ねんど	12/13・・・缶つみ
6//28・・・容器がいっぱい	12/27・・・さかな釣り
7/12・・・片栗粉あそび	1/10・・・はさみチョッキン
7/26・・・水あそび	1/24・・・風船あそび
8/9・・・金魚すくい	2/14・・・ホースをポットン
8/23・・・色水あそび	2/28・・・ひも通し
9/13・・・スタンプング	3/14・・・のりで貼ってみよう
9/27・・・お絵かき	3/28・・・お絵かき



げんきに子育て

<ねらい>

子育て仲間と一緒に学んで交流し、子育ての悩みや情報を共有する。

乳幼児をもつ親が自身の時間を持ち、安心して学習や趣味などを楽しむ。

<状況・成果>

5/27～7/1 毎週金曜日 10時～11時半（全6回）受講者6人 延べ27人 保育9人

保育付き講座の参加が少なくなっていること、またコロナ下で定員や回数を減らしていることを受けて、昨年に引き続き3公民館で時期をずらして開催した。

第2回と3回は、繊細な子どもHSC*についての学習を行

った。HSP*は病気や障がいではなく、また全体としては少数派なので、自身の特性に悩んでいる人や理解してもらえずに引きこもりやうつなどへ移行の可能性もある。そうならないためにも周りが理解できる環境が重要で、HSP・HSC気質を持つ自身や他者、そして子どもの特性を知る機会となった。

出産を控えている受講者が複数人いたので、第4回のヨガはマタニティーヨガに変更できるように講師に調整を依頼したが、検診や安静時期等と重なり参加は実現しなかった。参加は少人数であったが、和室に差し込む木漏れ日と鳥のさえずりが聞こえる静かな空間で、心身と向き合いヨガを行った。第5回のミニポーチ作りでは、華やかなジュエリーテープの魅力に心躍らせながら「こんなに集中したのは久しぶり」と、会話することも忘れ集中して製作に励んでいた。予定時間よりオーバーし課題が残ったが、ジュエリーバック作りは好評であった。

コロナ以前の保育付き講座は、保育ボランティアと受講者親子の交流会や外遊び等を取り入れた回を持っていたが、講座回数が少ないため今年度も見送った。改めて交流会は持たなかったが、初



回のオリエンテーション、保育を受ける前後、最終回の保育を受けている子どもの（講座中の）様子を撮ったビデオ鑑賞会などで交流を充実させた。短い期間に保育する子どもの性格やその日の子どもの体調などを伝えたり、終了後の保育ビデオ鑑賞会では短い期間に歩けるようになった、ボランティアと一緒に遊べるようになったなど、子どもたちの様子や成長を受講者がボランティアと共有する貴重な交流時間となった。

日時	内容（講師）	受講者
5/27	オリエンテーション・交流会（保育ボランティア）	6人
6/3	繊細な子どもHSCってどんな子ども？&わくほめワーク （市民活動グループほくせつママの木副代表【とよなかHSP 情報会】担当熊川サワコ）	5人
6/10		4人
6/17	ボールを使ってリフレッシュヨガ（工藤沙恵子）	4人
6/24	手づくりジュエリーバック（ミニポーチ）作り（田中優巳子）	4人
7/1	まとめ・保育ビデオ鑑賞（相互）	4人



—子育て支援事業—

出産を控え後半は欠席も増え少人数での開催となったが受講者同士が顔なじみになり講座の雰囲気は和やかであった。はじめて身内以外の人に子どもを預けた母親もいて、保育を受ける際、「子どもにさみしい思いさせての受講に罪悪感を持つ」という受講者の声もあったが、子どもも親も共に成長する機会となった。また地元頼れる身内がない人もいれば、父親が仕事で家を空ける機会が多いなどさまざまな環境がある中で、同じ子育て期間中の母親同士が孤立しないような仲間づくりや母親がリフレッシュし元気に過ごせる貴重な時間となった。

※ HSP (Highly Sensitive Person)・・・生まれつき非常に感受性が強く敏感な気質を持った人。
HSC (Highly Sensitive Child) は、HSP の子ども時代。

【受講者の感想】

・今回、保育付講座に参加させて頂き保育してもらっている間、本当にリフレッシュでき、HSC を学べたり、ヨガをしたり、ジュエリーバックを作ったりと、とても楽しかったです。保育中の子どもの動画をみても楽しそうに安心してできました。いつも家にいて保育をしてもらう機会がなかったので本当によかったです。ありがとうございました。
・身内以外に子どもをあずけることが初めてだったので、心配と不安もありましたが、ボランティアのみなさんがやさしい笑顔で対応して下さい、ほんとにありがたかったです。子どもが産まれてから何か作業することがなかったのでジュエリーバック作れて楽しかったです。次回は全て受けてみたいと思います。ありがとうございました。
・今回も楽しく受講させて頂きました。子ども達の成長をみて、伝えて頂き共有出来た事、とても嬉しかったです。困っていることなども、相談させてもらえて不安も減り、子どものことを知ってくれている人がいることが安心につながりました。ありがとうございました。HSCについても学べて、私自身の勉強になりましたし、自分を見つめ直すきっかけになりました。バック作りもとっても楽しかったです。大変充実した時間を過ごすことができ、楽しかったです。また参加した際はよろしくお願い致します。
・2度目の受講になります。今回も保育ボランティアさんにたくさん助けてもらって私のリフレッシュになりました。ありがとうございました。一番楽しかったのはジュエリーバック作り。子どもがいると、作品ひとつできあがるのに心が折れてしまいますが講座だときちんと作れます。

<課題>

受講者やボランティアの負担が少ない形での学習内容の充実。

パパサロン

<ねらい>

転居の多い地域性を考慮し、新しい参加者の取り込みと、継続した父親の仲間づくり。

家族で参加できる機会を設け父親の参加を促す。

コロナ下でも親子が過ごせる居場所づくり。

<状況・成果>

5月～12月 第4日曜日(10月休講 12月は第3日曜日) 10時～12時(9月は10時～13時)

全7回 参加者11組(38人) 延べ26組(73人)

月/日	内容	講師(協力)	参加組
5/22	手作りポッチャであそぼう/畑作り	相互/ パパサロンボランティア	3組 7人
6/26	ベルをならして踊っちゃお!/たなばた飾り作り	おりいりか(スタジオタイニー)/相互	3組 7人
7/24	水あそび/トマトの収穫	相互	2組 5人
8/28	水あそび/保冷剤でカラフル消臭剤作り	相互	4組 9人
9/25	かんたん手打ちうどんを作ろう/さつまいもの収穫	相互/パパサロンボランティア	5組 13人
11/28	【家族参加可】 バスボムでジェット舟作り/やさいも	上千野賀子(まちのすぐれもの登録者)/ 相互	7組 27人
12/18	小麦粉ねんどでクリスマスでこれーしょん	相互	2組 5人

令和2年度以降新型コロナウイルス感染症が広がり食事を伴う内容は控えていたが、制限も緩和された9月は手打ちうどん、11月はいづか家族の日になみ家族参加可とし毎年恒例のやさいもを行った。食べることや料理が好きな親子の参加もあり、うどん作りの解説を聞く際には、前の

めりになって聞いていた。途中お腹がすいてぐずっていた子も、出来上がったうどんを笑顔いっぱい食べ、完食していた。アルミホイルにくるみ炭火で一時間ほどじっくり焼くやきいもの回では、家族で秋の味覚を味わった。兄弟が2人以上いる親子の参加がほとんどで、普段味わう機会の少ないアウトドア料理を安心して楽しんでいた。

また親子で楽しめる工作は、障がい者スポーツ（ボッチャ）の理解とともに小さい子どもでも楽しめるボール作りとゲーム、夏は保冷剤に好きな色や香りを付けて消臭・芳香剤作り、秋は自宅のバスタブで楽しむバスボムやジェット舟を作って遊ぶなど、家でも楽しめる内容を取り入れた。

食事・工作のどの回も、自宅でも楽しめる内容で、毎回「うちでも作ってみようね！」と親子で話していた。次回の予告をする際には、子どもたちが「参加したい」と希望してくれることが多く反応も良かった。

近年、未就学児をもつ親世代は、家族との時間を大事にしたいとの希望が多く、家族参加できることに関心が高い。また、パパサロンで親子遊びをする月年齢が高くなり以前の1歳前後から5、6歳前後の参加が増えている。工作や遊びを親子で楽しめる時期であり、母親も父親に子どもを安心して任せられる。兄弟で未就学児がいる場合や対象年齢の時から継続で参加している場合は小学生でも参加可としていたが、昨年度から継続で参加していた2組の親子が8月より不参加となった。継続参加が難しいため父親同士の交流がうまく深められていない状況ではあるが、子どもたちが親同士をつなぐ役割を果たしてくれている。

申込み受付方法として時間帯を気にせず申し込みができる二次元コードを取り入れるようになり、子育て中の働く世代が気軽に申し込めるようになった。子育てサロン☆ほっとスペースの利用も増えているが、パパサロンの参加者とは異なっており、それぞれの家庭が求めている公民館活動の違いも伺えた。

【9月受講者の感想】

子どもと一緒に楽しく参加できました。普段頑張ってくれている母親の時間を作る面でも、こういった講座を開いていただけて助かります。／手作りうどん、とてもおいしかったです。いもほりも何十年ぶり体験でき昔を思い出しました。次回も楽しみにしています。いつもありがとうございます。／うどんづくりおもしろいです。また家で作ってみます。

【11月受講者の感想】

エコな遊び道具ありがとうございましたお手軽で良いですね。／やきいもがおいしく、子どもたちが喜んでいました。バスボム、ジェット舟の工作についても、家で作れるような説明もしてくれたので、良かったです。／こんなに簡単にバスボムができると知れて良かったです。／子どもはおいしいおいしいと言いながら食べていました。バスボムづくりの時は、2種類の粉末を混ぜるのが楽しそうでした。ジェット舟が強い勢いで動き出したのを見たときは、キャーキャー言いながら目を見張っていました。／おもしろかったです！！やきいも感動しました。パパサロンまたきたいと思います。とても良い休日になりました。ありがとうございました。／家で使うのが楽しみです。みんなで一緒に外で食べるやきいもはすごく美味しかったです。準備などありがとうございました。

<課題>

父親が参加しやすい企画運営。

多様化するライフスタイルに応じた参加対象など柔軟な対応。



7月 水あそび



9月 手打ちうどん作り



11月 ジェット舟あそび

シルバーライフ

<ねらい>

高齢者（65歳以上）の居場所・仲間との絆づくりの場。

社会情勢などに目を向け関心をもつ場。

<状況・成果>

5/12～12/1（7/14～8/25は休み）木曜日 10時～12時（全21回） 受講者28人

毎年、開講式で代表・会計・班長等の役割を決めており、これまで長く代表を務めた方から交代の申し出があり今年度は新しい代表でスタートすることになった。受講者の入れ替わりもあったが受講者数は変わらず、新たに入った2人は、はじめから馴染めている様子であった。

今年度は仲間作りに重点を置き、前半は座談会を多く取り入れた。「開講式・自己紹介」や「映画・こんばんは」を見た後には班ごとに感想を出してもらい、また、「自分史発表」で自身の生い立ちや経験談等話をしてもらった。プライベートなことを話すのが苦手な人もいたので、話したい人・話してもいいと思う人を問うと、6人程が手を挙げた。日常生活の中で気をつけていることや家族の話から子どもの頃の戦争体験の話までいろいろな話を聞くことができ、話し手の人柄や考え方などが垣間見えた。普段から顔を合わす関係だが、これまで以上にその人となりを理解したり自分事に置き換えて考えたりする機会となり、最終日の感想には、「自分史づくりは印象に残りました」「人それぞれの人生の中で苦しみ悲しみ辛い幸福 etc…、自分だけではないこと知った」等書かれていた。また、もう一度自分史発表をしてほしいという意見から、後期に再度「自分史発表2」を行った。

近年、後期のプログラムは座談会でみんなの意見を出し合い、それをもとに夏休みに班長たちが集まり職員と一緒にプログラムを組み立てている。今年度は、「折り紙」「新庁舎見学」「落語」など昨年度にない内容も加わり、手先を使う「折り紙」には、中央の「オープン折り紙」でも活動しているシルバーメンバー2人が講師となった。しっかりと綺麗に折り目が付くよう紙を折るのが意外に難しく、思った以上に力が入り、手がつってしまう人もいたが、それでも最後まで完成させ、また来年もしたいとの声が上がった。「新庁舎見学」では、5月に新庁舎ができてからまだ一度も行ったことがない人も多く、新たな発見があったことや階段を上り下りし歩いたことも良かった。「落語」の喜怒哀楽さんは11年前にも来てもらったが、また新たな演目で楽しませてくれ、コロナで沈みがちな気分を吹き飛ばし前向きな気持ちにさせてくれた。

今年度は受講者の意見を多く取り入れバラエティーに富んだ内容となったが、反面みんなの希望を詰め込み過ぎたところがある。脱コロナを意識しふれあいまつりへの出店や三館高齢者交流会の開催を視野に入れると、来年度はもう少しゆとりを持たせたプログラムやみんなでお話し合い作りあげていく時間が必要になると予想される。

昨年度結成した「百楽笑話会（ヒャクラクショウワカイ）」は、中心になって動く人がなかなか決まらず、年末に食事会を開催したがそれ以外の活動にはつながらなかった。今年度の自主活動は2年前のように講座の一環として進めてほしいという意見があり、開講式で自主活動について話し合いをした。結果、月1回、班ごとで運営を担い自主活動を行うことが決まり、12月以降はその都度班長を中心に集まり企画を進めながら、できる人ができる形で活動している。

【2022 年度シルバーライフプログラム】

回	月日	内 容	講 師
1	5/12	開講式・自己紹介	相互
2	5/19	映画「こんばんは」	相互
3	5/26	認知症のお話	直井愛子（認知症看護認定看護師）
4	6/2	ポッチャ	スポーツ推進委員
5	6/9	自分史づくり	明治安田生命
6	6/16	健康体操	中央公民館職員
7	6/23	貝塚よもやま話	浜手地区公民館職員
8	6/30	かたつむりさんと歌おう& リトミッククラブとの交流	かたつむり（高橋裕野）
9	7/7	座談会（自分史発表）	相互
10	9/1	座談会（自分史発表2）	相互
11	9/8	折り紙	井宮美栄子・平田幸子（受講者）
12	9/15	新庁舎見学	相互
13	9/22	安部元総理と日本経済の話	町田昌弘（受講者）
14	9/29	落語	喜怒家哀楽
15	10/6	ハンドベルでリズム体操	おりいりか
16	10/13	郊外学習（月化粧ファクトリー見学）	相互
17	10/20	健康体操2	中央公民館職員
18	10/27	寺内町の歴史を知る	郷土資料室
19	11/10	寺内町めぐり	貝塚観光ボランティアガイド協会
20	11/17	ネット詐欺にあわないために	貝塚警察署
21	12/1	修了式	相互
自主 活動	1/19 2/16 3/2 4/20	卓球バレー 閑空見学 折り紙 花見&グラウンドゴルフ	

【受講者の感想】

- ・いろいろな企画していただきありがとうございました。皆さんと仲良く楽しく受講できました。毎週とても楽しみでした。何にでも興味を持って参加していきたいと思えます。よろしくお願ひします。
- ・出席率の高い講座を来年度も再度検討お願ひします。
- ・シルバーライフで学ぶことも多く、身体の続く限り続けていきたいです。
- ・体を使い頭を使い手足の運動と毎回楽しかったです。
- ・レベルの高い老人会であった。



開講式・自己紹介



かたつむりさんと歌おう



寺内町めぐり

<課題>

- 仲間作りの仕掛けを常に意識しながら取り組む。
- 脱コロナを視野に入れた内容、時間構成で再考する。

シニア世代の筋力アップ講座（高齢介護課共催講座）

<ねらい>

筋力が低下しやすいシニア世代のフレイル（虚弱）予防・健康維持をめざす。

<状況・成果>

5/17・5/31・6/14・6/28・7/12 火曜日 全5回

第1部 13時～14時 受講者 22人、第2部 14時10分～15時10分 受講者 22人

講師：梅本道代（Physical Heart® 代表 NPO法人いきいき・のびのび健康づくり協会®理事）

昨年に引き続き、高齢介護課と共催で高齢期の健康維持をめざしシニア世代の筋力アップ講座を浜手地区公民館の企画・運営で実施した。ウィズコロナの生活が続く中で、日常の筋力低下を意識した人も多く定員を大幅に超えた応募があった。講師の協力を得て急きょ1日90分の1回講座を60分の2回に変更し、応募のあった44人全員が受講できるようにした。

時間が短くなった分、イスは使わず立位の体操を中心に行った。初回終了後の受講者からは、「昨年度より運動量多くなったのでは?」「やっぱりここに来ないと一人ではできない。公民館で皆とやるからできる」と、実感の声も聞かれた。コロナ下に入り夫婦で参加する受講者や男性の参加も増えた。講師の掛け声と一緒に声を出しながら動くなど、脳トレも行ったので、60分間の立位運動も気が付けば終了時間になっていたようだ。

講座の中盤では、講師より「踵（かかと）のお手入れはしていますか?踵も顔と同じ位毎日お手入れしましょう」とアドバイスがあった。ガサガサ踵の影響で歩き方が悪くなり、膝が故障する原因にもなるので、風呂上がりの踵の手入れ（保湿クリーム）を習慣にするよう伝えてくれた。

梅雨明けした4回目は、あまりの暑さに受講者はエアコンの前に整列していた。暑いけれど欠席せずに参加している受講者の運動に対する意識は高く、講座を楽しみにしていることが伺えた。

脳トレを取り入れた体操では、講師のマジックにかかったように楽しい笑い声が絶えずホールに響いていた。マスク生活が続くと表情筋が低下しやすく、固くなると肩こりにもつながる。「マスクの下は笑顔を忘れずに」の講師の声掛けに終了後の受講者は元気な表情で帰っていた。

講師が遠方からの来館であることやスケジュール調整が難しいこともあり継続的な開催は難しいが、フレイル予防を目指し受講者が運動やクラブ活動をするきっかけ作りとして健康講座は継続していく。

【受講者の感想】

後期高齢者に近づくにつれ、筋力の大事さを痛感しています。梅本先生大好きです。わかりやすくハッキリしていて。／毎回楽しく受講させていただきました。ペットボトルを使うことで変化があって良かった。初めて浜手地区公民館にきました。少し遠いけれど、頑張ってきて良かったです。梅本先生のさわやかな笑顔、ステキです。／楽しく運動を教えて頂きました。きつくないので家に帰ってお昼寝ができました。いつもはなかなか寝られないのに心地よい眠りがありました。／立ってする運動苦手でしたが、どうにか楽しんで運動することが出来ました。ありがとうございました。／楽しく5回受けさせてもらいました。笑いあり、声を出し、又少し緊張することもあり、帰りは軽くころよい気持ちで疲れは残りませんでした。／高齢者にも安心して取り組める内容で、しかもエネルギーがあふれる気が湧いてくる梅本先生、貝塚に来てね。

<課題> 多くの人が受講できる工夫。開催方法の検討。



ボール de ゆる体操

<ねらい>

フレイル予防と、若い世代にも軽い運動を定期的に行える機会を持つ。

利用者連絡会所属の活動クラブ増加への支援。

<状況・成果>

講師：渡邊淳子（健康運動指導士）

第1期 5/24、6/14、6/28、7/12、7/26 火曜日 10時半～11時50分 受講者15人

第2期 9/13、9/27、10/11、10/25、11/8、11/22、12/13 火曜日 10時半～11時50分 受講者12人

第3期 1/24、2/14、2/28、3/14 火曜日 10時50分～11時50分 全4回 受講者16人

コロナ下で行動制限の生活が続き昨年からのフレイル予防を中心とした健康講座のニーズが高まっている。今年度はそれを受けて無理なくストレッチを行えるようやわらかいボールを使った体操を取り上げた。また継続的な体操を行えるようにグループ化を図った講座として3期にわたり開催した。ボールは、第1期のみ貸し出し可とし、第2期以降は各自持参または購入してもらった。

講師の指導がはじまる10時50分までの20分は、グループ活動をするための交流時間とした。

第1期は、公民館案内を使って利用方法を伝えたり、ゲームや自己紹介をしたり、活動をともしする仲間と知り合い、ボールを使った体操を体験する機会とした。

第2期は、ボールの貸し出しがなかったことやグループ活動に抵抗がある等で継続の受講者・新規受講者ともに減少した。そのため、急きょクラブ活動の希望がない人でも受講できるようにした。第2期の受講者にグループ活動の意思を確認したところ、体操は継続したいけれどクラブ活動に伴う委員や役員のなり手が少ない等、継続的な活動に不安を抱えている受講者がほとんどだったので、第3期はグループ活動のための交流会は中止した。

また数年前に講座から立ちあがった「げんき up 体操」クラブの講師でもある指導者とクラブ員にも呼びかけ、ボールを使った体操をクラブでも取り入れて継続的な活動を希望している受講者の受け入れを快諾してもらうとともに、交流会で「げんき up 体操」クラブの活動紹介も行い、クラブの活動支援に繋がった。交流会では「げんき up 体操」のクラブ員の減少や運営の悩みもたびたび話題に上がり、受講者とともにクラブの現状や公民館活動の悩みを共有した。

第3期は新規受講者3人が加わった。第1期からの交流会を持ちながらの継続講座だったので、受講者同士や講師との談笑が自然と行われていた。

交流会でも話題となったフレイル予防の要望は高まっているが、公民館の自主運営（クラブ活動）には適合しない現状も踏まえ、高齢者の自主活動をどう支えていくか喫緊の課題である。

【第1期 受講者の感想】色々教えていただき勉強になりました。家でもできるところがわかりありがとうございます。また機会があればお願いします。／首の関節は大事だとわかっていましたが、今まで頭をぐるぐる回したけど体操で一つ一つの関節がわかりやすい感じがするようにします。／家に帰ってから気軽にボールを使っていつでもできるので教えてもらって良かったです。／【第2期 受講者の感想】ありがとうございました。コロナ禍以前の体調に戻ったようです。／大変良かった。体操をするきっかけになった。／これからもお願いします。／わかりやすく、身体にやさしくできたので良かったです。次も続けようと思います。／【第3期 受講者の感想】ボールを使ってのゆる体操、良かったです。呼吸方法や立位の姿が良くなった。毎日の散歩に生かしたいと思います。又同じ講座もあれば受けてみたいです。／独創的な柔らかいボールを使用したストレッチで、大変良かった。あまりハードやハイテンポなストレッチではなく、高齢者には馴染みやすく、続けやすいストレッチが良かった。

<課題>既存のクラブも含め高齢者の公民館活動支援を含めた事業の展開



かしこく夜活

<ねらい>

日中仕事をしている人など、比較的若い世代の人に公民館を利用してもらうきっかけとする。

<状況・成果>

(前期) 6/30、7/7、7/14、7/21、7/28 木曜日 19時～20時半 受講者 26人

若い世代や、日中は仕事等で公民館に来られない人にも講座に参加してもらい、さらに定着を図るため、昨年度に引き続き実施した。夜の時間を活用して公民館で楽しくいろいろな内容が学べるよう全5回で、お片づけ、ヨガと瞑想、話し方、苔テラリウム、免疫と腸のお話の内容を組んだ。定員は16人だったが、28人の申し込みがあり、講師に相談して26人まで枠を広げた。男性は1人、受講年齢は40～50歳代が多かった。

「スッキリお片づけのコツ」では、講師の家の収納をお手本にコツを教えてもらい、日々の生活に取り入れられる学びが得られた。「伝わる話し方」では、自己紹介やグループでのおしゃべりが組み込まれ、受講者間の親睦が深まり、その回以降が非常に和やかな雰囲気となった。最終回には受講者から、「夜に学べて良かった」、「次回も必ず受講したい」との声がたくさん上がった。

～アンケートより～

片づけとてもにがてですが、少しだけ家をみなおしてみようと思いました。(6/30) /今まで体験したヨガとは全く違って、瞑想がとても良かったです。毎日忙しく過ごしているのとでもリラックス出来ました。(7/7) /他の受講者の方の話を聞いたり、お話できたのが良かった。“相手を思って会話をする”とてもむずかしい事ですががんばって実践していきたいです。(7/14) /こけがかわいくて愛着がわきました。長生きしてもらうよう水やり気をつけます。(7/21) /腸の働きや重要性について改めて知る事ができて良かったです。食事バランスよく食べる順番を考えて食べようと思います。(7/28)

前期プログラム

月/日	内 容	講 師
6/30	スッキリお片づけのコツ	谷地愛
7/7	自分を整えるヨガと瞑想時間	根本圭子
7/14	伝わる話し方	吉村佳美
7/21	苔テラリウムづくり	神藤知治
7/28	免疫の鍵は腸にあり	戸川真早美



免疫の鍵は腸にあり

(後期) 1/12、1/19、1/26、2/2、2/9、2/16 木曜日 19時～20時半 受講者 14人

申込みの多かった前期を受けて、初めから定員を26人に増やしたが、今回はそれほど集まらず14人の受講となった。年明けのこの時期は講座の参加が少ない傾向にあるので、来年度後期は参加しやすい時期への見なおしが必要か。

手話やペーパークラフトのかご作り、歴史、ヨガ、ミニコンサートと交流会という内容で実施した。

「簡単な手話を覚えてみよう」では、障害福祉課職員に講師を依頼し、手話での挨拶や自己紹介の仕方などを学んだ。継続した取り組みとして、以降の回の講座前後に手話での挨拶を取り入れた。

「ペーパークラフトでかごを作ろう」では、講師の補助に山手地区公民館職員が入ったことでスムーズに講座が進み、受講者それぞれが満足のいく作品を作る事ができた。「歴史～江戸時代の庶民たち～」では、講師の声かけで、その回限りの受講者7人も参加した。

最終回の「アルパハーブミニコンサートと交流会」では、アルパハーブの伴奏に合わせてみんなで歌ったり演奏の体験もあり、普段触る機会の少ない楽器を楽しむことができた。交流会では、1回目に学んだ手話を思い出して自己紹介をした後、ミニコンサートの出演者も交えて輪になって座り、感想や、今後受けてみたい講座などについて話し交流を図った。その後、公民館で自主グループの活動ができることや、様々なボランティア活動の募集をしていることを案内した。

～アンケートより～

手話を覚えただけだけでなく、聞こえない方とのコミュニケーションの方法は色々ある事がわかりました。(1/12) /かごをペーパークラフトで作るのは初めてだったけど楽しく、出来上がりも満足できるものでよかったです。また機会があれば参加したいです。(1/19, 26) /江戸時代の事を書いた小説も好きでよく読んでいたので、今回の庶民の話とても興味深かったです。(2/2)

～交流会より～

家で子どものことなど大変なことがあるが、今日の演奏を聴いて癒された。来てよかった。/夜活は自分のための時間になってとても良い。/一回目の手話をきっかけに手話を習い始めた。/受けてみたい講座：コーラスなど歌、物作りやヨガ、俳句、太極拳、和太鼓、お花など。

後期プログラム

月/日	内 容	講 師
1/12	簡単な手話を覚えてみよう	出崎美香
1/19	ペーパークラフトでかごを作ろう	高井眞弓
1/26	ペーパークラフトでかごを作ろう	高井眞弓
2/2	歴史～江戸時代の庶民たち～	岡本康敬
2/9	自分を整えるヨガと瞑想時間	根木圭子
2/16	アルパハーブミニコンサートと交流会	濱口富子

< 課題 >

引き続き夜の講座を実施し、若い世代、仕事現役世代の更なる公民館利用の定着を図る。

後期の開催時期を検討。

ちゃかぶき

茶歌舞伎 ～お茶は日本のこころです～

<ねらい>

受講者の年齢優先順位を設け（18～60歳未満優先）、比較的若い世代に歴史ある『日本茶』について関心を持ってもらう。また日本の食文化の促進につなげる。

< 状況・成果 >

11/27 日曜日 13時半～15時半 受講者 11人

講師：日本茶インストラクター協会 大阪府支部（3人派遣）

日本文化の代表である『日本茶』の美味しい淹れ方講座、及び『茶歌舞伎』（お茶の銘柄や産地などを当てる遊び）体験を行った。

日本茶インストラクター協会大阪府支部（以下、インストラクター）が、茶業界から受講者一人ずつの急須や湯呑み、また茶業界が『茶歌舞伎』本番に使う茶器を借用し、インストラクターによる本格的な「お茶の美味しい淹れ方」や『茶歌舞伎』体験を行った。

受講者は改めて日本茶文化を再認識し、お茶を身近に感じる事ができた。また、日本の食文化の促進となったが、60歳以下優先としたことで募集定員を下回った。

【アンケートの感想】楽しかった／お茶の淹れ方で味が全く変わることにビックリした／今度自宅でゆっくり淹れてみたい など。

< 課題 >

市民への周知方法の拡大努力、年齢優先条件の撤廃含め、来年度以降は継続かどうかとも再考。

エコで足の健康にもよい！布ぞうりを作ろう

<ねらい>

健康に良く足裏にも気持ちが良い布ぞうり作りの学習。

不要になった布地を使った SDG s の取り組み。

<状況・成果>

7/4、7/11 月曜日 13 時半～15 時 全 2 回 受講者 15 人 ボランティア 2 人

講師：上野千賀子（まちのすぐれもの登録者）

昨年度、山手地区公民館や、浜手地区公民館（以下、浜手）でパパサロンやシルバーライフ講座の一つとして開催した布ぞうり講座は、チラシや案内を見て浜手での単独の開催要望が多く寄せられ、素足が気持ち良い夏の時期に開催した。また、前年度シルバーライフで布ぞうり作りを経験した人に講座のサポートに入ってもらった。使う布は不要になった T シャツなどの古着で、エコなうえに新しいものに生まれ変わるリメイクの楽しさを味わう機会となった。

初日、この講座を楽しみにしていた受講者が講座前から、使う布の準備を始めていた。定刻になり改めて講師から、布ぞうりの編み初めの方法を教えてもらい、製作に取り掛かった。布のつぎ方や選び方に加え、丈夫な土台作りや幅の細いぞうりにならないためのコツやアドバイスを聞きながら行った。2 日目は鼻緒作りを中心にを行い、土台の色に合わせて、使わなくなったネクタイやテーブルクロスでオシャレな鼻緒にしている人もいた。足のサイズや布の特性がそれぞれ違うので鼻緒が自分の足に合うように、何度も試し履きし調整しながら製作していた。

出来上がったぞうりを並べ互いの作品を褒め合いながら受講者どうし完成の喜びを分かち合った。いままで使い捨てていた布に、ひと手間をくわえるだけで世界に一つだけのぞうりが完成し、暑い夏を涼しく元気に過ごせる準備ができた。

平日の昼間の開催だったが、若年層の参加もあり「布ぞうり」が懐かしい世代と新鮮に感じる世代がともに学習できる内容であったようだ。若い受講者の配色センスに刺激をうけたり、製作工程でわからなくなったときにアドバイスを受けるなど世代を超えて交流しながら布ぞうり作りを行っていた。

【受講者の感想】

- ・以前から「布ぞうり手作り」したくて探していたところです。とても親切に指導して頂き有難うございました。もっと難しいと思っていましたが、ご指導が良かったので何とか出来上がりました。2 足目は復習するつもりで忘れないように再度作成します。
- ・物を作る楽しさと、先生の親切で分かりやすい説明で、出来上がった布ぞうりを手に持って感謝しています。ありがとうございました。（家で続けます）
- ・丁寧に教えて頂き、いろいろなパターンをあいだあいに教えてもらい、とても楽しく作ることが出来ました。慣れるまで少しかかりそうです。生地を変えていろいろと作ろうと思います。ありがとうございました。
- ・使い古した T シャツが素敵な布ぞうりになりました。色合わせや素材によって、一人一人違った個性あふれる作品。。。思い出しながら家族のぞうりにチャレンジします。
- ・布ぞうり作りたかったのととてもうれしいです。いろんな布でこれからも作りたと思います。
- ・とても良かったです。念願がかなって布ぞうりを作ることが出来ました。本当にうれしいです。また受講したいです。是非よろしくお願いします。

<課題>

年齢や性別に関係なく関心の高い講座内容の開拓。



上映会「めぐみへの誓い」

<ねらい>

映画を通して、SDGsにつながる環境・人権問題や社会問題について知り、考える。

公民館利用者が講座運営に関わる機会の提供。

<状況・成果>

8/5 金曜日 13時半～15時半 参加者 37人

協力：めぐみへの誓い上映委員会

「めぐみへの誓い」は、北朝鮮拉致事件という社会問題をテーマにしたドキュメンタリー映画で、公民館利用者や昨年度の映画会（プラスチックの海）アンケートからも要望があった。

上映にあたっては、実行委員を広報かいつかで募集したが申し込みがなく、その後、公民館主催講座「シルバーライフ」の受講者10人程が引き受け運営に関わった。上映前の実行委員会ではいろいろな発言があり、講座を通して普段からお互い良い関係ができてこのメンバーが頼もしく感じられた。

運営の面では、配給会社を通さず製作委員会から直接DVDが届くのだが、インターネットで申込んでからなかなか連絡が来ない等もどかしい部分もあった。しかし後日のやり取りの中で、製作委員会側にはこの映画をなるべく多くの人に観てもらいたいという熱い思いがあることも知ることができた。また配給会社を通さない分縛りも少なく、DVDを借りている間は何度でも上映会をして良いということで、こちら側でも多くの人に観てもらえる機会を作ろうと、この上映会の他にも夏の子ども講座で子どもや親子対象に映画会を開催したり、また観たい職員に観てもらったりすることができた。

アンケートからは、拉致問題という重く難しいテーマだが人それぞれ感じるものが違うことがわかった。観賞後にはグループトークの時間を予定していたが、コロナの感染者数が増えた時期で意見交換会を中止にしたことは残念であった。しかし、代わりに後日アンケートに書かれた感想をまとめ、壁新聞にしたことでいろいろな意見や考え方を掲示することができた。

公民館で開催する上映会は、子どもからお年寄りまで観たい人が自由に参加できるところが利点である。ただ、コロナ下とは言え参加者が少なかったため、今後の上映会では広報に工夫が必要。

【参加者の感想】

- ・拉致問題について、それを知っているということと心を寄り添わせることは違うと感じています。今回その問題の奥のところを知ることができ、この上映会はとても良かったと思いました。
- ・国が違えばこれ程にと、自由に暮らせる程ありがたいことはない。
- ・後半の回想シーン、想像？シーンは身勝手、日本がアジアの周辺国に行った蛮行を思い起こさせました。他に描き方があったと思います。

<課題>

市民のニーズを拾いさまざまなテーマで講座を企画するが、広報の工夫が必要。



認知症予防にもなるスマホでイキイキライフ（高齢介護課共催講座）

<ねらい>

スマートフォン（以下スマホ）を活用し、生活に役立つ情報や人とのつながりを得ることで認知症予防につなげる。

<状況・成果>

8/26・9/2・9/9 金曜日 13時半～15時（全3回） 受講者10人

講師：坂口耕平（パソコン教室「らいく」専任講師）とスタッフ1人

昨年度山手・浜手で人気の高かった講座を、3館で日程調整をして6月に山手、8・9月に浜手、11・12月に中央の順で同じ内容で行うことにした。浜手では昨年度の過剰な人気はやや落ちついたものの、初めての人だけで抽選となる状況だった。

講座1日目は文字の入力から始め、Wi-Fiに接続し調べたいことを検索する。全員が以前からある程度スマホを使っている人たちがそのレベルの差はある。比較的できる人が、入力の方法にもいくつかのやり方があることを知り感心していた。また、この日のアンケートには「最近購入しましたので扱い方がわからず放り出したい気持ちです」という切実な声も書かれていた。

個々のレベルが違うことは良い面もあり、受講者同士で隣の人に教えることで意気投合し、最終日にはラインの友達登録をしてトークを楽しんでいる姿も見られた。

ただ、機種やバージョンの違いについては悩まされた。機種をアンドロイドに限定し受付の際に確認してはいるが、らくらくホンだったために、思うような操作ができない方が1人いた。講師やスタッフが付き丁寧にサポートしたが満足はされなかったようだ。全回出席したが、最終回に「機種が違うので全く理解できませんでした」という感想だった。来年度開催する際、チラシにらくらくホンの注意書きが必要か。

浜手のスマホでイキイキライフ講座は3回目だが、毎回「もう一度受けてみたい」「何度も聞きたい」という要望がある。また、別の機種やもう少しレベルアップしたスマホ講座を望まれる人もいる。多様な意見に少しずつでも応えていけるよう、例えば公民館主催で通年講座を検討するなども含め、3館と高齢介護課とで内容を相談しながら長期的に考えていく。

今回残念なことに、高齢介護課が別の事業と重なり3回とも職員が来られないことになったが、講師となるパソコン教室「らいく」がスタッフを1人増やしてくれ、また大学から来ていた教育実習生が入ってくれたおかげで、サポート体制に不安はなかった。

【受講者の感想】

- ・まだ少しできないところもあるけど、スマホの面白さがわかり楽しくなってきました。みなさん、指導ありがとうございました。
- ・「スマホでイキイキライフ」が実現した。大変楽しかった。理解は3割ぐらいで、もう一度参加したいと思います。
- ・使うことができなかったカメラ等できたので、今後もっと勉強したいです。
- ・公民館主催でのスマホ教室を継続することも考えてください。

<課題>

レベルや機種の違いにも対応できるよう、3館と高齢介護課とで話し合っていく。



カラダすっきり☆ストレッチ

<ねらい>

感染症で自粛が続くなか、高齢者にはフレイル予防と、若い世代にも軽い運動を定期的に行える機会を持つ。

<状況・成果>

A コース（ボールを使ったストレッチヨガ） 講師：工藤沙恵子

第1期 9/6、9/20、10/4、10/18 火曜日 13時半～15時 全4回 受講者 19人

第2期 11/1、11/15、12/6、12/20 火曜日 13時半～15時 全4回 受講者 23人

第3期 1/17、1/31、2/7、2/21 火曜日 13時半～15時 全4回 受講者 24人

B コース（ミニハンドベルを使ったリズム体操） 講師：おりいりか

第1期 9/2、9/16、10/7、10/21 金曜日 13時半～15時 全4回 受講者 10人

第2期 11/4、11/18、12/2、12/16 金曜日 13時半～15時 全4回 受講者 25人

第3期 1/20、2/3、2/17、3/3 金曜日 13時半～15時 全4回 受講者 13人

昨年度より引き続きコロナ下で高齢者のフレイル予防、現役世代の運動不足解消を行うため3期に分けて、また曜日や内容の選択がしやすいよう A、B の2コースを設定し開催した。A コースは、比較的しっかりヨガを行いたい人を対象にボールを使ったヨガの体験（椅子使用なし）を、B コースは運動が苦手な人でも音楽やハンドベルを使って楽しみながらできる体操（椅子使用あり）を行った。一人でも多くの方が受講できるように初めての人を優先に募集し、継続参加の人は1週間後から先着順で受付した。A、B 両コースとも第1期は定員を20人で募集したが、感染症の制限が解除されたことを考慮し、第2期より定員をA（24人）、B（25人）に増やした。

A コースは、バランスや姿勢の補助に使う大きめのボールと、筋膜はがしや手が届きにくい背中などに刺激を与えるテニスボールの2種類を使ってヨガを行った。ボールを使ったヨガは初めての人が多く、はじめは恐る恐るボールに体を委ねていたが、徐々にバランスもとれるようになりスムーズにポージングなどを行っていた。またテニスボールを使って普段なかなか自分の手では届きにくい肩甲骨や腰への心地良い刺激を味わった。後半になるとちょっと頑張るポーズにも挑戦し、ヨガが終了すると、頑張った自分や仲間自然と拍手がおきていた。「ボールはどこで買うの?」「上手にボールに座るにはどうしたらいい?」と講座の前後に受講者が講師へ尋ね、ボールを使ったストレッチを日常に取り入れる意気込みが感じられた。



B コースは、ミニハンドベルを使った体操で、初めての体験に受講者も緊張気味にスタートした。毎回しっかりウォーミングアップを行い、その後音楽に合わせてミニハンドベルを奏でながらステップを行った。前回の復習をしながら曲のワンコーラスの振り付けを習得し、徐々にボックスステップやサンバのステップ、さらに手足が別々の動きが

加わり難易度は上がったが、後半はスムーズに大きく動けるようになっていた。第2期は、クリスマスソングに合わせて「歌う、ミニハンドベルを奏でる、スウィングする」を順に行い、歌唱・演

—成人対象事業—

奏・体操を組み込み楽しみながら行った。また、この講座の受講者と講師がふれあい料理講座のクリスマス会にボランティアとしてゲスト出演し、参加者とともにクリスマスを盛り上げてくれた。

A、Bコースともはじめての受講の際、自分の体力や強度によって継続したい人、自分には向かない等の判断をして受講の継続の有無を決定していた。体操講座を企画する際に、どの強度や世代に照準をあてるか悩むが、Aコースは現役世代、Bコースは高齢者向けに行った。それぞれ好みが分かれるが、Aコースでは徐々に現役世代の参加が増えた。またミニハンドベルを使ったリズム体操はどんなものか理解しにくいところもあって応募が伸び悩んだが、シルバーライフ講座で行う等したことによって2期は応募が増えた。健康講座の要望は高いので脱コロナに向けて次年度以降も、募集は先着順から抽選に戻す、広報の仕方や回数、対象の設定等の開催方法を検討していく。

【受講者の感想】Aコース

- ・肩甲骨にテニスボールをおいてほぐすというのをしり、毎日しています。
- ・ボールを使ってのストレッチは経験したことがなかったのでとても気持ち良く楽しかった。
- ・気持ちも体もすっきりとなり、とても楽しみに参加させていただきました。
- ・先生の声がきれいでゆったりストレッチ行えます。ゆっくりなのにかなり筋肉に効いてスッキリします。
- ・少し股関節の改善したように思います。うれしいです。
- ・心がやすらぎヨガを取り入れた講座、とてもよかったです。

【受講者の感想】Bコース

- ・はげしくもなくゆったりと楽しめました。普段あまり使わない頭も少し動きました。
- ・リズムに合わせるのは少し難しいですが、楽しくできることが良いと思います。
- ・講師が親切で優しい方なので楽しかったです。頭と体がついていけばむずかしいなあ。
- ・童心に帰り楽しかったです。ありがとうございました。
- ・クリスマスソングに合った体操、とても楽しかったです。先生のおしゃべりとてもユカイでした。
- ・とても楽しかったです。キビキビした中にとてものりやすく指導してくださいました。

<課題>

高齢者および現役世代の健康維持につながる講座の充実。

広報の仕方、講座回数と受付方法の見直し。

たのしゅ

楽酒もう ～🍷ワイン編🍷～

<ねらい>

庶民には比較的高級なイメージがあるワインを、身近な飲み物として感じてもらう。家族の夕食など食卓のいろどりに、ワインというアイテムを使い、心を豊かにする。

<状況・成果>

3/5 日曜日 13時半～15時半 受講者 16人 講師：キャトルヴァン オーナー 西山 満

ワインの歴史やワイン造りを学び、『テイスティング』体験を行った。講師がワインバーのオーナーで、また(社)日本ソムリエ協会認定ソムリエということもあり、普段体験することが難しい『テイスティング』を行ったことで、ワインを身近に感じてもらうことができ、受講者には貴重な体験講座となった。また、話したことのない人どうしがお酒やチーズを味わい、自然と会話がはずむ様子がみられた。

受講者の募集方法について、ふだん利用の少ない現役世代に参加してもらいやすいように、対象を20歳～65歳以下優先とした。市民への周知方法が乏しいのは否めない。

【アンケートの感想】楽しかった／美味しかった／ワインことがよくわかった／帰ったらさっそく購入します／アルコールのお陰か(笑) 同じテーブルの方とも話しがはずみました など。

<課題>

今後「楽酒もう」を継続する場合、チラシやポスター作成を含め、周知方法の拡大努力や応募方法等を再考する。

ダイエットボクササイズ

<ねらい>

平日の昼間に公民館を利用できない若者や働く世代にも関心の高いエクササイズを取り上げ、公民館の利用につなげる。

<状況・成果>

11/11、11/25、12/9、12/23 金曜日 19時半～20時半 受講者 25人

講師：梅本道代（Physical Heart® 代表 NPO 法人いきいき・のびのび健康づくり協会®理事）

夜の講座として継続参加を希望する受講者が多いダイエットボクササイズは、今年度山手（5～6月）、中央（9～10月）、浜手（11～12月）と3公民館でそれぞれ時期を変え、初めての人を優先して募集した。浜手の開催時期はコロナ下ではあるものの行動制限が解除されていたので、定員を20人から25人に増やした。3館で浜手が最後の開催となったが、応募のほとんどが山手、中央で参加のない人であった。金曜日の夜の開催や二次エコーコードを利用した申し込みが可能であること、若い世代が楽しめる内容などの要望が合致し申し込みが増えた。



仕事帰りの人が参加しやすいように19時半からのスタートとしたこともあり、遅刻する人がほとんどなかった。現役世代が多く急用や体調不良等で毎回5人前後の欠席はあったが、全回参加できなかったことを悔やむ声も聞かれ、毎回楽しみに参加していることが伺えた。20人以上がホールに集まると圧迫感はあったが、立ち位置を時々確認して間隔を取るよう促した。第2回以降は足の動きも加わったので一気に発汗や心拍数が上がった。3回以上同じ動きをするとほとんどの人ができていたので、型にも慣れてきた後半は、キックポーズでキープをしたり音楽のテンポを上げたり受講者の様子を見ながら進めていった。最終回、寒波の影響で震えながら来館していた受講者も、講師の掛け声と動きに触発され、外気の寒さを吹き飛ばす熱気でいっぱいとなった。講座終了後のわずかな時間を利用して、講師や仲間と充実した時間を共有していた。

公民館の利用がほとんどない若い世代の受講者が多くみられ、また親子参加や男性の参加、幅広い世代での参加があり、新しい受講者の利用の一助となった。

—参加者の感想—

毎回受けるたびに元気をもらいました。姿勢が良く、身体も鍛えられていて見習いたいと思いました。これをきっかけに運動をする習慣を身につけたいと思っています。ありがとうございました。/50代に入り体の重さや代謝の悪さを感じていたところに、友人のすすめで応募しました。ついていけるか不安がありましたが、先生が様子を見ながら徐々にレベルを上げていって下さったので、本当に楽しくしかも負荷をいい具合にかけつつ、取り組むことができました。もっと長い期間続けていただきたい講座です!!/とても楽しく先生の教え方がわかりやすかったです。ボクササイズにハマりそうです。浜手公民館でクラスがあれば通います。/すごい運動量で、この冬の時期にこんなに汗かくものかと驚きました。もっと若い時に始め続けていたら筋肉、体力つけられたのになあと感じています。梅本先生の体力の凄さに感服していました。説明されながら動きあんなに平然とされている姿。流石と思いました。

<課題>

若い世代に関心の高い内容や開催日時を設定し、継続的な公民館利用に繋げる。

ふれあい料理講座

<ねらい>

料理を通して障がい者の食の自立・社会参加の場を提供する。

受講者とボランティアの交流・育ちの場とする。

<状況・成果>

5/9～3/13 原則第2月曜日(12月はクリスマス会)10時半～12時半(全10回)

受講者 延べ146人(内、指導員 延べ46人)

浜手地区公民館の「ふれあい料理」では、毎回、いぶき作業所・社会福祉法人どんまい・ワークサポートセンターらぱんの施設利用者が指導員とともに参加しており、ボランティアの手助けを得ながら、調理・配膳・片付けまでを行っている。

今年度はコロナによる行動制限も大きく緩和されていることから通常どおり5月から開催した



が、参加人数については昨年度同様コロナ前の1/2相当で実施した。12月のクリスマス会では、おりいりかさんを招き、ハンドベルを使ったリズム体操を行った。食事後はボランティアによるなまえビンゴで遊び、利用者全員にプレゼントをボランティアで用意した。ただし、今年も人数などを配慮し、ホールでの食事時にボランティア・職員は同席せず、給仕の補助のみをおこなった。1月からの開催

について参加人数を増やすことも検討したが、具体の行動制限などはないものの感染拡大が続いている状況であることから11月までと同様の参加人数で実施した。

講座では、参加者それぞれに障がいの程度によって調理等できる内容に違いがあるため、以前は班毎にすべてのメニューを作っていたが、人数制限をしてからはその日のメニュー毎に各班に振分け、分業でおこない、個人の状況に応じてできる事を積極的に行えるよう心がけた。また、メニューも標準的で手の込んだことはしなくてもいいメニューを選んだ。

さらに今年は混とんとした国際情勢と円安のための物価高騰が相次ぎ、材料費が当初予定をかなり上回ったがボランティアの努力と工夫で凌いだ。

受講者(施設利用者)はこの講座を大変楽しみにしている人が多く、参加人数が限られている中で順番待ちになっている状況と聞かせてもらった。講座が開催できること、続けることが必要であると再認識した。



月日	メ ニ ュ ー
5/9	夏野菜のキーマカレー（福神漬付）・新キャベツのサラダ・フルーツヨーグルト和え
6/13	クリームシチュー・マカロニサラダ・フルーツアイス
7/11	ハヤシライス・スパゲティサラダ・スイカ
9/12	ぶっかけソーメン・梅ごはん・鶏からあげ・コーヒーゼリー
10/17	かやくごはん・ソーメンお吸い物・鮭のホイル焼き・プリンフルーツそえ
11/21	そばろ丼・ぶたじる・パンケーキ
12/12	【クリスマス会】鶏からあげ・じゃがいものグラタン・スパゲティサラダ・ロールパン・スープ デザート（ショートケーキ・みかん）・飲み物（コーヒー・紅茶）
1/16	チキンライス・マカロニサラダ・野菜スープ・フルーツポンチ
2/13	かんたんポトフ・鶏むね肉やわらかピカタ・みかんのコンポート・白ごはん
3/13	一口おにぎり（鮭・鶏ごぼう・白ごま）・ポトフ・りんごのコンポートアイス添え

<課題>

次年度も感染症対策を常に念頭においた対応が必要。

新しいメニューの研究や高騰する材料費への対応。

浜手アフタヌーンコンサート

<ねらい>

乳幼児から高齢者まで、誰でも身近に様々なジャンルの生の音楽に触れる機会を作る。
市民と協働で文化事業を実施することで、市民力を公民館事業に活かしていく。

<状況・成果>

偶数月第2木曜日(8月のみ第3火曜日) 14時～15時 参加者 延べ500人

月/日	タイトル	内容	出演者
4/14	アンデスの風	アンデス音楽	アントニオ・カマケ
6/9	初夏のコンサート～木管五重奏と愉しむ夏の名曲～	木管五重奏	アンサンブル プティ プランシェ
8/16	愛のかたち	ソプラノ、ピアノ	木澤佐江子、生田英奈、細川勝(ゲスト)
10/13	ピアノであそぼう	ピアノ	宮崎剛
12/8	ピアノ・ヴァイオリン・コントラバスの調べ♪	ピアノ、ヴァイオリン、コントラバス	革島玲奈、林泉、林俊武
2/9	ようこそ！エレクトーンの世界へⅡ	エレクトーン	松内愛

市民の企画委員と職員の協働で企画・運営を行った。ホールで開催し、毎回コンサートの最後には、来場者みんなで「ふるさと」の歌唱や手話を行っている。今年度より、来場者の声を拾い上げるためにアンケートを実施した。

4月は当初クオレの会に打診するも、コロナの影響で活動ができていないとのことで叶わず、アンデス音楽のアントニオ・カマケ氏に出演依頼。企画委員と話し合い、ステージ正面にタペストリーを飾り付け、ホール入口にアンデスの風景写真を展示し、会場を盛り上げた。出演者の声掛けで、参加者も音楽に合わせてステップを踏み、大変楽しく盛り上がるコンサートとなった。

6月は企画委員が新たに探してきた木管五重奏の女性グループが出演した。MCではコロナ下で演奏活動がずっとできず、今回が活動再開のステージになったとの話もあり、出演者や参加者みんなでコンサートができることを喜んだ。終演後、参加者が出演者に応援していると話しかける場面もあり、交流につながっていた。

8月は、それまで定員80人としていたところを100人に広げ、昨年コロナで中止となった会に予定していたソプラノ歌手が出演した。同じく昨年出演予定だったバリトン歌手が急遽ゲスト出演し、サプライズありの楽しいステージとなった。

10月はリクエストコーナーありで人気のピアノ演奏、12月はピアノ・ヴァイオリン・コントラバスのトリオ、2月は一台の楽器で様々な音色の演奏ができるエレクトーンで、迫力のある生の演奏を身近に聴くことができた。

今年度、演奏中に参加者のスマートフォンの着信音があったり、幼児がぐずって声を上げたりする場面があった。企画委員と一緒に今後の対策を考えるとともに、浜手アフタヌーンコンサートが乳幼児から高齢者、障がいのある人など様々な人が気軽に参加し誰もが身近に生の演奏を楽しめるコンサートであることを、参加者、出演者及び企画委員に伝えていく必要がある。

～アンケートより～

4月：気分がおちこんでいる時に明るい気持ちになりました。もう1度企画して！！/楽しい手拍子や踊りまであり、十二分に楽しむ事が出来ました。ありがとうございました。

10月：ショパン、シベリウスの曲はあらためて感動しました。リクエストコーナーは、とても楽しく明るい気持ちにさせて頂きました。コロナやウクライナ戦争のこんな時こそ、音楽の必要性を痛感しました。有りがありがとうございました。又、演奏を御待ちしております！/すごい迫力ある演奏でした。ピアノって本当にすご

いな～～。楽しい時をありがとうございました！

12月：それぞれに素晴らしい演奏でしたが、三人のアンサンブルはとても力強く、感動しました。コントラバスのみの演奏は初めて聞きましたが、渋くとても素晴らしかったです。/晴天のアフコン、今年もめいっぱい楽しませていただきました。来年も開催できるように祈ります。今日も名曲を最前列で聴かせてもらいました。コントラバス&ヴァイオリン&ピアノ、三つのかけあいがとてもこちよかった♪また来て下さいネ♪

2月：まるでオーケストラの演奏会のように演者の方も楽しそうで幸せな時間でした。/エレクトーンのコンサート初めて聴きました。演奏をききながら映像が浮かんで来てとても楽しいひとときでした。

<課題>

今後も市民企画委員と協働で、市民が身近に生の音楽に触れる文化事業を開催していく。乳幼児から高齢者、障がいのある人など様々な人が気軽に参加できる場としていく。



4月「アンデスの風」



6月「初夏のコンサート～木管五重奏と愉しむ夏の名曲～」



12月「ピアノ・ヴァイオリン・コントラバスの調べ」

にんぎょうげき

<ねらい>

子どもから大人まで、生の人形劇を楽しむ。

公民館や地域で活動しているグループの交流、発表の場とする。

<状況・成果>

2/19 土曜日 10時半～11時10分 参加者51人

出演：人形劇きしゃぼっぽ（浜手地区公民館クラブ）3人

演目：橋の上のおおかみ・まんまるちゃん・へんしんトンネル

以前出演していたおおぞらこども園の保育教諭のグループは、コロナの影響で今回も出演が叶わず、人形劇きしゃぼっぽのみの出演となった。演目に合わせたキーボード演奏を担当しているメンバーの都合がつかず、別のメンバーが30年ぶりに練習して演奏したり、それぞれが複数の人形を扱い工夫して演目を完成させた。

参加者の子どもは0～8歳で問いかけに答えられる子も多く、クイズ形式で進める演目では元気にクイズに答え、正解すると跳びはねて喜び大いに盛り上がった。終演後には手づくりの人形を近くで見せてもらったり、記念撮影をするなど出演者と参加者が交流する姿が見られた。参加した保護者からは「コロナ下で保育園の行事がなくなることが多い中、人形劇を真剣に見つめている子どもの姿が見られて嬉しかった」との声も聞かれ、コロナ下で大変意義のある事業となった。

<課題>

コロナ後を見据え、複数団体や新しい団体の出演を検討する。

出演者と参加者の交流を促進する。



シャンソンでこころのエステ

<ねらい>

平日公民館を利用できない人が生の音楽に触れる機会。

<状況・成果>

7/30 土曜日 13時半～14時45分 参加者：67人

出演：和歌山シャンソン協会 歌唱：橋本佳代

ピアノ伴奏：宇田川妙



平日の昼間に公民館へ来られない人にも参加してもらいやすい土曜日に開催した。歌唱とピアノの息の合った掛け合いで、ユーモア、反戦歌、恋愛歌やショートコントもあり、はじめてシャンソンを聞く人でもわかりやすいよう歌のエピソードを入れながらすべて日本語でシャンソンを味わった。第7波の感染症の広がる中、ためらいながら参加した人もいたが、演奏会が始まるとそんなもやもやした気分を忘れシャンソンに魅了され「こころのエステ」を感じるひと時を過ごした。

～プログラム～

第1部・・・私の回転木馬／貴方とランデブー／モン ジゴロ／モンメック ア モア／足音／貴方を待つ

第2部・・・家へ帰るのが怖い／リヨン駅／アコールドオン弾き／アレアレア／貴婦人／水に流して

【アンケートの感想より抜粋】

楽しい会でした。先生のドレス、トーク、歌もすごく会の雰囲気にもマッチしてよかったです。ピアノの伴奏が素敵でした。選曲の流れ、説明が楽しかった。ありがとう。／コロナで心が沈んでしまうような今、シャンソンの調べが心に深く入ってきました。感動しました。／シャンソンに触れるチャンスがなかったので、フランスの香り、素敵でした。／心に染みるお歌ばかりですごく良かったです！！ブラボー！／プログラムの内容もよく、楽しめました。ありがとうございました。／日本語で歌ってくれたので、曲の内容が良くわかった。／全体で、ピアノを弾いている方がすごく印象的でした。

<課題>脱コロナに向けた文化事業の開催時期や内容の充実。

Autumn Jazz Concert

<ねらい>

フルバンドの迫力ある文化に触れる機会。

親しみやすい文化事業をきっかけに公民館利用を促す。

<状況・成果>

9/4 日曜日 13時半～15時半 参加者：71人

出演：中野ひろし&スウィングガイズオーケストラ 16人



去年はフルバンドでの開催が初めてで、準備やリハーサル等手探りで行ったが、今年はコロナ下での開催にも経験を重ね、手際よく開演時間を迎えることができた。プログラムはスクリーンミュージックを中心に、地元出身のバンドマスターがそれぞれ演奏する映画音楽の解説をしてくれた。ジャズが好きな人、映画音楽が好きな人、ジャンルを問わず音楽が好きな人、バンドマスターのトークを楽しみにしている人など、このコンサートに来た理由は違っても、コロナ下で窮屈な生活に限界を感じて過ごしている中、ジャズや音楽を楽しみにたくさん人が集った一日となった。

【アンケートの感想より抜粋】

久しぶりの生演奏、迫力があり映画音楽、映画のシーンを思い出しました。よかったです。／中野さんのトーク、各映画音楽の演奏、迫力ある生演奏がよかった。演奏曲の題名あてのクイズにより真剣に聞くことができた。／心が休まり、リーダーが和む雰囲気でもわかりやすい説明を入れながら毎回楽しみ。／迫力があり大変良かった。ビッグバンドの登場が珍しいので楽しみました。マスターのおしゃべりも楽しい！／去年も今年もとてもよかったです。親しみやすく楽しいライブでした。また来年もよろしくお願ひします。「いそしぎ」良かった！！／今回は映画音楽の特集ということで聞き知った曲が多くあってなじみやすかった。次回はラテンやタンゴなどを聞いてみたいです。

<課題>脱コロナに向けた文化事業の開催時期や内容の充実。

保育ボランティア

<ねらい>

保育付き講座の受講者が安心して受講できるよう、子どもにとって安全な保育を実践する。
ボランティアが保育しやすい環境を整える。

<状況・成果>

定期登録者 9人 不定期登録者 3人

5/20に保育の打ち合わせ会を行い、5/27～7/1に保育付き講座「げんきに子育て」の保育を行った。2歳までの9人の保育の申込みがあった。年齢が低い子どもに目が行き届くよう、ボランティアがほぼ一対一で付けるよう調整し、定期登録者の参加が少ない日には不定期登録者にも依頼した。今回参加の不定期登録者は普段他館で保育に携わっており、他館のボランティアとの交流の機会にもなった。

保育の打ち合わせ会では、保育時の感染症対策やおやつの出し方等を確認した。また、講座1回目のオリエンテーションの流れ・内容などについても確認し、保育の説明や手遊びをする役割分担を決めた。

講座の前後にはボランティアが母親に話しかけ、子どもの家での様子を聞いたり、保育中の様子を伝え、母親が安心して預けられ子どもの特性にあった保育ができるよう気が配られていた。最終日に子どもに渡すプレゼント作りでは、子どもに絵を描いてもらったり、集合写真を貼るなど、記念になる工夫をしていた。

反省会では、「他者とあまり関わろうとしなかった子が、他の子や大人と遊ぶようになっていて成長している姿が見られた」、「他のボランティアが丁寧に子どもに接している姿を見て、自分も子どもに丁寧に接しようと思った」という感想が出され、やりがいを感じるとともにボランティアにとっても子育てや人との接し方、関係作りを学ぶ場になっていたことが確認された。

また昨年度から保育の様子をビデオ撮影し、講座の最終日に受講者や子ども達と一緒に観賞しているが、ボランティアが保育を振り返る機会にもなった。

現在浜手の保育ボランティアは、子どもや母親のためにどのような保育、対応をしたら良いか考えて、自分達で連絡相談する体制ができている。今年度は新たに9月から、「子育てサロン☆ほっとスペース」第4週目の造形あそびの際のボランティアを依頼し、活動の幅を広げた。

<課題>

次年度も感染症の状況を見ながら、よりよい保育ができるようボランティアをサポートする。

保育付き講座や子育てサロンでのボランティアの活動機会を継続し、乳幼児親子との交流を進める。



ふれあい料理ボランティア

<ねらい>

障がい者の料理作りのサポートを通して食の自立への支援を行うと共に、ボランティア集団の学びの場とする。

<状況・成果> 登録者数 12人

4/11、令和4年度のふれあい料理講座打合せ会を開催。ボランティア、施設職員、公民館職員の三者で打合せした。昨年来、中止が続いていたが制限が緩和されたことから今年度は縮小バージョン（参加者定員1/2）ながらも再開することとした。三者での打合せ会終了後、引き続きボランティアだけでメニュー研究を行った。

5～7月、ふれあい料理講座を実施。

8/8、ボランティア打合せ会を実施。その時点での状況を再確認し、11月までは縮小バージョンで実施することを決定。また、例年行っているクリスマス会についても実施する方向で確認し、内容・規模等については直前の状況により判断、決定することとした。さらに9～11月のメニュー研究をおこない、11月の講座終了後にクリスマス会に向けての打合せ会を実施することを決定した。

9～11月、ふれあい料理講座を実施。

11/21、ふれあい料理終了後に打合せ会を実施。クリスマス会について意見交換とメニュー決定を行った。アトラクションについても実施する方向で決定。行動制限はないものの感染者が増加している傾向にあるため、ボランティア等のホールでの同席はしないことなどを確認した。さらに1～3月についても縮小バージョンで実施することとし、あわせてメニュー研究も行った。

また、ボランティアも高齢化の傾向にあり、個々に体調不良を訴えるメンバーもいる中で、この頃には深刻な体調不良により1人が実質欠落することとなった。

12/12 クリスマス会を実施。

1～3月、ふれあい料理講座を実施。

<課題>

あらたなボランティアの確保。

浜手アフタヌーンコンサート企画委員

<ねらい>

公民館と市民との協働でコンサートを企画・運営する過程を通して、公民館事業に市民の力を発揮できる場をつくる。

<状況・成果>

昨年度から引き続き、6人で活動している。企画委員会では、前回の浜手アフタヌーンコンサート（以下、アフコン）の振り返り、次回の打ち合わせ、今後の出演者の提案・決定を行い、コンサート内容を企画する際には、企画委員の人脈や音楽の知識等が活かされている。運営面ではポスター掲示やその依頼、近隣へのチラシポスティング等の広報活動、アフコン当日の準備・受付・開演挨拶・片付け等を職員とともにいった。

また会議の中で話し合い、10月実施分より、開演前に携帯電話の着信音注意のプラカードを掲げる、小さい子どもが客席でぐずった場合に対応することを決め、企画委員で分担して対応した。更に12月実施分からは、1階玄関での来場者案内も企画委員が担当する、2月実施分からは着信音注意のアナウンスを開演前に行うことを決め、実施した。企画委員の現メンバーは一致団結しているが、固定化しており、今後新しいメンバーを増やすことも課題である。

<課題>

企画委員に活発な提案や意見交換を促し、協議を重ねて進めていく。
高齢の企画委員もおり、新しい若い世代の参画を促していく。

図書整理ボランティア

<ねらい>

ボランティアの協力を得て、多くの方が本に親しみ楽しめる環境を整備する。

ボランティアが主体的に活動できる場の提供。

<状況・成果>

図書コーナーで月3回程度、家庭文庫「エルフの森」がマスクと手袋を着け感染症対策をしながら本の整理を行っている。絵本や児童書が手に取りやすくなり、また季節やテーマに合わせて並べ替えてくれるので、何度来ても新鮮な気持ちになる。

コロナが落ち着き、親子連れでゆっくり絵本を読む姿も少しずつ増えてきた。利用した人からは、「本を選ぶのが楽しくなります」と感想を聞くこともあり好評である。

コーヒーコーナーも再開し、時々絵本を借りに来た人やコーヒーコーナーボランティアと会話を楽しむこともあり、この活動によってロビーの雰囲気は和やかになっている。

<課題>

引き続き、ボランティアが主体的に活動できるよう支援する。

第34回 ふれあいまつり

<ねらい>

公民館で活動しているクラブの活動成果発表の場。

クラブや地域団体・参加者との交流の場。

<状況・成果>

10/22 土曜日（展示のみ） 13時～16時 参加者延べ100人

10/23 日曜日（舞台・展示・映像・模擬店）10時～14時 参加者延べ600人

テーマ：「心をつなぐ ふれあいまつり」

まつり開催にあたり今年度は、利用団体・地域団体へ参加の意向を伺った。7団体に手紙を出し、4団体が参加の回答。その中には「開催されるのを待っていました！」と、このまつりの再開を待ち望んでいる声も聞かれた。

利用者連絡会（以下 利連）の中では、人数が足りない、コロナが不安という理由から3クラブが準備のみの参加となった。そのうち火曜ペン習字には、テーマを記した横断幕作成を依頼。子ども3人が協力しまつりのテーマを筆で書いた横断幕が1階ロビーに貼りだされ、多くの人に見てもらえた。またシュガー（お菓子作りクラブ）は模擬店でおやじの料理に加わり、カレー販売の手伝いとして参加した。クラブの高齢化・人数減少という課題を乗り越え、1クラブではできないことを他クラブと協力できる形で関わったりする姿が見られた。

模擬店を伴うまつりは3年ぶりである。行動制限は解除されていたが、実行委員会前の準備会ではマスク着用や検温・手指消毒等の感染対策を行いながら開催することを皆で確認した。また、参加者のヘルスチェックをとるために受付・模擬店を含め全て館内で開催することで決定した。

実行委員会では、全体会議、部会別会議ともに、ウイズコロナでのまつり開催方法について何度も話し合いながら進めた。特に舞台部会では、ホールに何人入れるか、演者はマスクをつけるか、客席の消毒をどうするか等課題は多かったが、昨年度の方法も参考にしながら決めた。模擬店部会は、すべての店を館内の1階2階ロビーに配置し、また飲食はプレイルームのみで行うことに決めた。感染症対策を講じての策であったが、当日は予想以上の来客で一部混雑が見られ、終了後の反省会では、やはり模擬店は外でしたいという意見が目立った。

例年通りとはいかないことが多く大変な年であったが、運営委員の提案から、当日参加者にまつりの感想を書いてもらい本部に貼りだしたことで賑わいが増し、またクラブへの応援メッセージや良かった・楽しかったとの感想が溢れ実行委員の励みとなった。ただ、利連役員の協力が少なかった印象があり、実行委員メンバーからは役員がもっとしっかりと関わってほしいという意見がでた。利連役員側にも違う意見があるので今後じっくり話し合っていくことが必要。

<課題>

実行委員会形式だが、利連行事の一つなので、運営への関わり方についての調整をする。

アフターコロナを視野に入れたまつり開催方法を検討する。



ロビー活用（展示・図書・コーヒーコーナー）

<ねらい>

市民の憩いと交流の場、学習やグループ活動の場、情報発信・発表・報告の場、また障がい者の社会参加の場として整備し活用する。

<状況・成果>

ロビーは、誰もが自由に利用できる場として開放し、待ち合せや読書・簡単な会議・ゲーム遊び、また2階では卓球など、子どもから大人まで自由に時間を過ごしている。今年度も遊具の消毒やヘルスチェックは続け、安全安心な居場所づくりに努めた。

ボランティアグループが運営するコーヒーコーナーは、夏頃から「いぶき作業所」「社会福祉法人どんまい」の障がい者も参加し、定期的な活動に戻った。クラブ終わりにコーヒーを片手に談笑する人も増え、少しずつコロナ前の賑わいを取り戻しつつある。

図書コーナーでは、読みたい本を見つけて借りたり読んだりしている人たちのほか、ボランティアによって綺麗に並べられた児童書や配架台に展示されたお勧めの絵本を見ながら、選んで借りていく親子の姿も多く見かける。

ロビー展示については、一般市民からの作品展示は少なかったものの、「貝塚の歴史・史跡の旅」では一畳一畳ほどの貝塚市の航空写真に、見に来た人からは感動の声が聞かれた。その他、クラブの作品展示や「はまて子どもパーク」で子どもたちが作った作品の展示等が行われ、利用者はそれぞれ気軽に鑑賞し楽しんでいた。

2年前に市民サービスコーナーが無くなり、そのスペースに今年度新たに授乳室を設ける事ができた。乳幼児を連れた親がこれまで以上に気軽に公民館を利用することができると好評である。

<課題>

アフターコロナを視野に入れながら、今後も安全安心な居場所として工夫する。

展 示 内 容	期 間
貝塚の歴史・史跡の旅	5月10日～22日
中央公民館 月曜絵画クラブ作品展	6月20日～7月4日
七夕飾り（放課後子ども教室活動）	6月30日～7月30日
山手地区公民館 水墨画クラブ作品展	8月25日～9月8日
夏の子ども講座 作品展示	7月21日～8月15日 9月12日～26日
夏の子ども講座 モニター展示	9月1日～13日
おおぞらこども園 ドールハウス	10月3日～11日
中央公民館 まつりのモニター展示	10月11日～21日
中央公民館 ろうの花クラブ作品展	11月6日～22日
かいづか家族の日 展示	11月21日～12月2日
クリスマスツリー（放課後子ども教室活動）	12月1日～26日
善兵衛ランド 天体写真展	2月27日～3月6日

第五中学校区地域教育協議会（すこやかネット）

<ねらい>

校区内の学校、公共施設、地域の団体・住民が情報を交換し、定期的な会議での交流を深めることにより、子どもを中心とした事業の協働を進める。

<状況・成果>

毎年、年3回の会議に出席し、周辺施設、学校、こども園、地域団体の近況報告、課題・問題点の解決のため共通理解を図っている。定期的に発行されている「すこやかネットニュース」には、子ども対象の公民館事業などを記事にし提供。今年度もコロナ下ということもあり会議は速やかに行われた。今後も地域に寄り添い、子どもの事業の協働を図っていく。

<課題>

地域の子どものすこやかな成長と見守りのため、積極的に公民館としての役割を担っていく。協議会でのつながりを事業運営に繋げる。

パークタウン（連絡協議会・防災専門委員会・盆踊り実行委員会）

<ねらい>

公民館周辺地域住民との相互交流を図るとともに、地域課題について年間数回の会議の機会を設け、問題の解決・地域の福祉に資する。

<状況・成果>

パークタウン連絡協議会・防災専門委員会に、地域の公民館として、情報交換やその地域独自の課題について共有するため年に十数回の会議に出席している。

今年度も、コロナ下で「盆踊り」は開催中止となったが、「防災訓練・避難訓練」については、11/20日（日）に、第五中学校にて約240人の地域住民で行った。また参加者にとって、防災や避難についての再認識の場となった。

<課題>

昨今の社会状況を考慮に入れ、地域の公民館として何ができるかを検討する。

プレイルーム開放

<ねらい>

利用のない時間帯にプレイルームを開放し、乳幼児親子が安心して過ごせる場を提供する。

<状況・成果>

5/29～1/31 (24回 延べ69人)

近隣に乳幼児のいる家庭や転勤で初めて貝塚市に住むことになった家庭なども多いため、乳幼児親子が安心して過ごせる場・親子同士が交流できる場として、利用のない時間帯にプレイルームを自由に使えるよう年間を通して開放している。同じ時間帯に他の親子があそびに来た時は一緒に使用してもらうよう伝えている。

コロナ下に入って以降、乳幼児親子が公民館で集うことからしばらく離れていたが、子育てサロン☆ほっとスペースなどの受講者に加え、保育園や幼稚園等の自主グループの親子、ふらっと公民館を訪れた親子にプレイルーム開放事業の案内を行い、利用を促した。それでも月に1～2回と利用は少ないが、10月以降感染症の行動制限が解除されたこともあり前年度よりも利用が増えた。利用する際には換気や使用したおもちゃ等備品の消毒など感染症対策は引き続き行い、乳幼児親子が自由に過ごせる居場所づくりに寄与した。

<課題>

今後も、乳幼児親子が安心して過ごせる居場所として年間を通してさらに周知を図っていく

【参考】ほかでもがんばっているよ 浜手地区公民館利用者連絡会所属クラブの地域での活動

月日	クラブ名	会 場	備考（講演内容）
8/3（水）	朗読グループ サルビア	岸和田市桜台市民センター	非核平和資料展（一隅を照らす～中村哲医師の生き方）
9/2（金）	朗読ぐるーぷ サルビア	貝塚市立東山小学校	修学旅行前学習（帰り来ぬ夏の思い）
9/9（金）	朗読ぐるーぷ サルビア	岸和田市立太田小学校	修学旅行前学習（帰り来ぬ夏の思い）
9/16（金）	朗読ぐるーぷ サルビア	貝塚市立二色小学校	修学旅行前学習（帰り来ぬ夏の思い）
10/7（金）	朗読ぐるーぷ サルビア	貝塚市立南小学校	修学旅行前学習（帰り来ぬ夏の思い）
10/20（木）	朗読ぐるーぷ サルビア	岸和田市立八木北小学校	修学旅行前学習（帰り来ぬ夏の思い）
10/21（金）	朗読ぐるーぷ サルビア	岸和田市立八木南小学校	修学旅行前学習（帰り来ぬ夏の思い）
10/28（金）	朗読ぐるーぷ サルビア	泉佐野市立佐野台小学校	修学旅行前学習（帰り来ぬ夏の思い）
11/2（水）	朗読ぐるーぷ サルビア	岸和田市立光明小学校	修学旅行前学習（帰り来ぬ夏の思い）

浜手地区公民館利用者連絡会

<ねらい>

公民館活動への理解を深め、自主的な活動ができるよう支援する。

クラブが連携して活動に取り組み、課題を共有して活性化できるよう支援する。

<状況・成果>

クラブ数 27 全クラブ員数 324 人 (役員：8 クラブ)

昨年度末に2クラブ(カントリーダンス・油絵)が廃部となった。その表立った理由はクラブ員の減少や高齢化だが、輪番制で回ってくる利用者連絡会(以下、利連)役員を負担に感じてのことも一つある。特に役員任期が2年あることに腰が引けるようで、近年はクラブから選出された役員が1年で交代するケースも出てきている。またこれまでは、役員2年目の人が会長を務めることが慣例となっていたが、今年度は1年目の人が利連会長と、輪番で回ってくる三館利用者連絡会の会長も務めた。本来なら1年の経験値を活かして、2年目に主力となり活動できる2年任期制という方法が良い方向に行かず、さらに役員中5人がクラブに入って間もない定例会に参加したことがない人だったので、職員が丁寧に関わり自主活動を支えていく必要があった。

反面、コロナ下3年目となり活発に活動するクラブが増えてきている。「夏の子ども講座」や「クラブ体験」、三館利用者連絡会の「展示交流」に参加したクラブは昨年度より増えた。また、広報にクラブ紹介が載ると、クラブ見学の問い合わせが一定数あり入部につながることもあった。コロナを経験し、運動や交流をしたいという需要は増えていると予想されるので、クラブの広報や運営を支える取り組みを今後もしていくことが大切である。

利連の年間行事は、ふれあいまつりとレクリエーション、年末大掃除で、レクリエーションと年末大掃除については定例会で委員の意見を聞きながら進めた。(ふれあいまつりについては実行委員会形式、別シート参照)レクリエーションは今年度も中止が決定。年末大掃除は、12月第1水曜日に全委員が集合し職員と共に一斉に行っていたが、今年度は違う方法で行うことになった。12月を「大掃除月間」とし、各クラブが年末の活動日に決められた場所をクラブ員みんなで掃除する方法に変えたが、結果「別の日にわざわざ来なくていい」「クラブ員みんなで協力できた」と良い感想がほとんどで、来年度も同じ方法で行うことになった。

定例会では、委員が意見を言いやすい雰囲気作りに努めたが、利連の課題について皆で話し合う機会はなかなか持てないまま進んだ。しかし年度最後の1月の定例会で、委員・役員選出について意見があり、高齢化や人数減少で委員や役員を出すことが困難になっているという意見が出た。他のクラブでも同じことがあるか問うと、アンケートなどで客観的データを出すのが良いのではという案が出された。すぐに解決できない問題であるが、今後役員を含め利連全体で考えていくことが大事だと確認する事ができた。役員が入れ替わる時期なので、これらの課題を来年度も継続して話し合っていくことが必要。

<課題>

クラブ員の人数減少や高齢化という課題にどう取り組んでいくか役員と一緒に検討していく。

引き続き、役員会や定例会で一人ひとりの意見を引き出すような仕掛けづくりが必要。

アフターコロナを視野に、利連行事やクラブ支援で楽しい取り組みを検討する。